

6

2004年

組合広報

NO. 450

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

総代会挨拶	今年も環境問題への対応を	理事長 大村 功作	1
総代会	東鍍工組第 38 回総代会		2
	公防協組第 33 回総代会		
	東鍍工組平成 15 年度事業報告		3
	東鍍工組平成 16 年度事業計画		8
	公防協組平成 15 年度事業報告		11
	公防協組平成 16 年度事業計画		14
	十日会賞表彰 菊池忠男氏受賞他		18
	工組・協組貸借対照表・損益計算書		19
	平成 15 年度役員会・委員会出欠一覧		22
	正副理事長 中川経産大臣と会見		29
	都議会自民党政調会長と打合せ会議		30
あなたの予定表	7 月の環研・協組集荷日程ほか		32
	理事長日誌、正副理事長神田明神を参拝		33
ピックアップ	金属ボタンに鍍装飾ほか		34
支部シリーズ	城東支部の巻「一之江名主屋敷」		36
	訓練校 7 月授業案内		38
支部通信	城東支部、城西支部、城南支部、品川支部		39
	大田支部、葛飾支部、向島支部、西部支部		
	足立鍍友会、葛飾青年部会		
	3 価クロム化成処理剤の特性と問題点		48

今年も環境問題への対応を

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合 理事長 大村功作



東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合の両総代会を開催したところ、ご多忙のなかをご来賓をはじめ総代、顧問・相談役、組合員の皆様のご出席をいただき感謝申し上げます。

今年に入り、新聞紙上で景気回復が報じられています。それは主に大企業が中心であり、トヨタ自動車は税引後1兆円を超える最高益を出しています。この1兆円を超える利益の中の2200億円が企業努力であるとしています。私は下請企業の努力ではないかと思っています。コストダウンによる利益であり、もう少し我々の所に回してくれれば我々も多少は潤うことが出来るのではないかという気がしています。いずれにしても我々めっき業界にとってはまだまだ厳しい状況が続いています。

さらには、東南アジア、中国、ベトナム等の経済発展に伴って国内産業の空洞化も進んでおり、受注量の減少等厳しい経済状況が続いています。その中でほう素ふっ素等をはじめ新たな環境規制が次々と押し寄せており、我々組合としてもただ手をこまねいて見ていくわけにはいかないと、昨年11月に環境プロジェクトを立ち上げました。これら環境問題に積極的に取り組み、また、要望請願活動を強力に展開していこうという趣旨で設立したものです。このメンバーは委員長に石川進造氏、委員として川上洋一副理事長、八幡順一副理事長、菊池忠男環境委員長、学識経験者として矢部賢先生、訓練校校頭の神戸徳蔵先生に加わって頂いてスタートし、昨年11月から毎月勉強会を行い、わずか半年たらずで、国会で暫定基準の延長が取上げられるなど大きな成果を上げたのではないかと思います。総代会終了後の懇親会冒頭でその参議院予算委員会の模様についてビデオを上映しますが、暫定基準の延長は勿論のこと、特に感激したのは中川経済産業大臣が、めっき業は日本の産業の中で大事な部分を占める基幹産業であると国会の場で発言を頂いたことはめっき業界にとって大変有り難く、過去に例のないことではないかと感激しています。

さて、工業組合は昨年に続いて4つの事業、環境規制問題への対応、人材の育成、新技術の開発と高付加価値化、情報化の推進を中心に進めて参ります。今年も環境問題が一番大きな問題になるのではないかと思います。組合執行部は、各関係者のご協力を得て全力を挙げて取り組んで参りますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。特に組合を構成する各支部の後押しが非常に重要であり、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東鍍工組第38回・公防協組第33回総代会開催

東京都鍍金工業組合の第38回通常総代会と東京鍍金公害防止協同組合の第33回通常総代会が5月24日(月)午後2時から湯島の東京ガーデンパレスで行われた。

はじめに東鍍工組の総代会から入り、宮澤裕専務理事の司会により、出席総代会が総代会議事に必要な法定数を満たしていることを報告した。

姫野正弘副理事長は「新聞等で大手企業がバブル崩壊以来の好決算を発表しているが、我々には波及していないのが現状である。加えて環境問題があり、組合は一致団結してこの難局を乗り越えていきたい」と開会の挨拶をした。

大村功作理事長が挨拶し、めっき業界は厳しい経営環境が続いている中で、新たな環境規制に直面し、組合は積極的に

対応、昨年11月に環境プロジェクトを立ち上げ、活発な活動を展開し、ほう素ふっ素等の暫定基準の延長という大きな成果を挙げたことを述べた。(1P掲載)

議長選出は、司会者一任となり、満場一致をもって議長に大田支部の総代・海老名平吉氏(組合顧問)を選出した。議案審議に入り、各議案の内容を宮澤裕専務理事が説明しそれぞれ異議なく承認可決された。

(1)平成15年度事業報告、決算報告及び剰余金処分承認の件

監査報告(田中秀和監事)

(2)平成16年度事業計画、収支予算並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件

(3)平成16年度借入金残高の最高限度決定の件

(4)平成16年度常勤役員報酬決定の件



東鍍工組・平成 15 年度事業報告

強力な要請運動を行うため「環境プロジェクト」立上げ

引続き、公防協組の総代会に移り、小原俊幸専務理事の司会により、出席総代が総代会議事に必要な法定数を満たしていることを報告した。

議長選出は、司会者一任となり、再度大田支部の総代・海老名平吉氏が選出された。各議案の内容は、小原専務理事が説明した。

(1) 平成 15 年度事業報告及び決算・剰余金処分承認の件

監査報告(田中秀和監事)

(2) 平成 16 年度事業計画及び収支予算・資金計画並びに経費の賦課徴収方法決定の件

(3) 平成 16 年度借入金額の最高限度決定の件

(4) 平成 16 年度役員報酬額決定の件

以上各議案が滞りなく承認可決され、議長が退席した。

両総代会終了後、平成 16 年度第 33 期十日会賞が、長年組合役員として組合運営に参画し、めっき技術の向上、環境対策等に多大な成果を挙げた常任理事の菊池忠男氏（葛飾支部・光陽鍍金(株)）に贈られた。

次いで公防協組が本部組合員の松田産業(株)武蔵工場に対し、シアン集荷処理 8 万キロリットル達成を記念して感謝状を贈呈した。昭和 47 年城南処理センター創業以来シアン濃厚廃液を集荷処理して 3 月 25 日の集荷をもって累計 8 万キロリットルに達した。これまでも 1 万キロリットル達成毎に該当事業所に感謝状を贈っている。

最後に由田猛副理事長が閉会の辞を述べ、終了した。

経済概況

平成 15 年度の我が国経済は、輸出がイラク情勢や S A R S 禍の影響等から、年度前半は、やや低調に推移したが、後半は、米国経済の力強い回復の動きなどを受けて、持ち直しの動きとなった。また、生産活動の回復は緩やかで、生産設備の海外シフトの動きも続いた。一方、設備の老朽化や統廃合の進展等もあったが、設備稼働率の水準自体は、依然として低く、企業の慎重な投資姿勢の中で、収益状況の改善等もあり、設備投資は、更新投資を中心に、緩やかながらも、回復傾向が鮮明になりました。その結果、総体として、企業収益は、価格の低落傾向が続くなかで、売上げの持ち直しの動きは、低迷基調で推移。一方、企業の統廃合や人件費の削減など、リストラ対策の効果等により、大企業製造業が主導する形で、緩やかながらも回復した。

景況の緩やかな回復に伴って、雇用の過剰感、徐々に弱まっているものの、完全失業率の高水準での推移や有効求人倍率が、緩やかな改善に止まるなど、雇用・所得環境は、依然として厳しい状況が続いた。また、個人消費は力強さに欠け、総じて低調な動きが続いた。

また、物価は、中国を中心とする低コストの海外生産品の輸入増、企業の合理化、価格競争の激化など、需給両面からの押し上げ圧力は活発となり、さらに、企業倒産の水準は、依然高いものの、足元では緩やかな減少傾向となった。

中小企業の景況は、経済全体の動きを受けて、年度前半は足踏み状態となっていたが、後半には、売上げや収益が、緩やかではあるが持ち直し、改善基調で推移した。

組合を取り巻く概況

景気の先行きには、不透明感が漂っているが、政府は、景気回復をめざし、経済再生に向けた構造改革や規制緩和の推進に、全力で取り組む姿勢は、感じられた。私達は、中小企業に対しても、早急かつ具体的な支援策が講じられ、明るい展望が開かれることを願い、政府に強く期待してきた一年でもあった。

一方、経営資源に制約のある中小企業は、個々では解決し難い課題も多いことから、組合組織や組合ネットワークを最大限活用し、生き残りのための戦略を構築することが求められた。そのため、国や東京都の実施する産業活性化のための政策事業や中小企業振興のための各種会議に積極的に参画し、また、行政指導やノウハウの提供、さらに財政措置をおおぐなど、強力な行政支援を求めていることに、努めた。

私達、めっき業界が抱える緊急課題は、大きく、不況対策及びデフレ対策であり、また、産業空洞化によるめっき需要の激減対策、さらには、土壤汚染対策法に象徴される環境規制問題への対応であると思う。

長期にわたる構造不況は、元気な企業でさえも、苦境に喘ぎ、倒産に陥ってしまう昨今である。一方、我が国製造業は、コストのみならず技術力の面でも、中国をはじめとする東南アジア諸国の追上げに遭遇し、製造業の多くが、生き残り競争力の強化を求めて、生産拠点を海外にシフトさせてきた結果として、国内産業の空洞化現象が、一層進み、私達の下請型中小企業の経営基盤を揺るがし、受注量の激減、単価の切り下げといった深刻な事態に見舞われてきた。この厳しい現実の中で、私達は今、限られた経営資源を再活性化させ、高付加価値の技術や製品を生み出す経営体質への転換が、強く迫られているといっても過言ではない。組合は、変化の激しい経済動向の中で、平成15年度の組合運営の基本方針に沿って、4つの主要課題に、積極的

に取り組んできた。

まず、環境規制問題への対応では、東京都環境確保条例(平成13年10月1日「化学物質の適正管理」)施行では、東京都が有害物質を取り扱う事業所に、対象となる有害物質の取扱量の報告を義務付けるなど、条例全般にわたり、国の定めるPRTTR法より、一層の厳しい内容であったので、私達は、東京都との度重なる話し合いの中で、施行に関わる運用面での、業界への特別の配慮を求めた。

また、土壤汚染問題に関しては、汚染土壤の浄化等の処理技術の開発が遅々として進まないなか、私達は、企業の存続に関わる深刻な問題として、土壤汚染を受け止め、業界の実情に即した経済的かつ簡易な処理技術の早急な確立を、行政に求めるなど、直面する技術的課題に取り組んできた。

さらに、排水規制については、ほう素、ふっ素等の現行暫定排水基準が、平成16年6月末で、適用期限を迎えることから、現行暫定基準値での延長を求める要請活動を積極的に展開。成果として、平成16年3月末日には、環境省は、基準を直ちに達成することが、技術的に困難な業種に係る特定事業場に対しては、経過措置としての暫定排水基準の延長の方向で、意見募集(パブリック・コメント)など、所定の事務手続を進めていくことになった。私達は、処理技術の開発促進や現行暫定基準値の維持、不況業種にめっき業を指定していただくことなど、残された課題についての検討を進めてきた。

また、重要課題について、組合組織をあげて、関係方面に、強力に要請運動を展開していくため、平成15年11月「環境プロジェクト」を立ち上げ、時代に即した新たな組合活動の一端を、運動として、内外に強くアピールしてきた。その運動は今、一步一步着実に実りつつある。

また、人材の確保・育成については、技術・技能の継承難や後継者難といった問題もある

ので、組合併設の高等職業訓練校での人材育成訓練をととして、若手経営者の養成やモノづくりの継承、新技術開発の担い手づくりに、また、新しい需要を切り拓いていくための意欲ある人材の育成に努め、明日の業界を支える人材を育む様々な具体的手法を試みてきた。

一方、技術・技能者の質的向上という面から、技能検定制度をはじめ、各種の資格取得の普及・拡大にも、力を注ぎ、その結果、組合員や訓練生の資格取得に、拡がりを見せ、人材の質的向上に一定の成果をあげた。

さらに、新技術の開発と製品の高付加価値化については、組合併設の環境科学研究所の研究・分析機能の強化を図るとともに、その円滑な運営にも努め、組合員事業所・サービスの推進に力を入れてきた。その推進事業の一環として、中小企業総合事業団の「課題対応技術革新促進事業」を受託して、“小物製品への三価クロム浴に関する研究調査”（F/S調査）を積極的に進め、組合員事業所をあげての共同調査研究に、成果をあげた。また、技術開発促進の手法として有効である、公的研究機関との連携にも力を入れ、新素材や新分野に対処した新技術の開発促進に努めた。とりわけ、東京都立産業技術研究所等との連携を強化して、技術力向上への指導やノウハウの提供を受け、環境科学研究所の研究・分析機能の一層の強化に努めた。さらに、製品の高付加価値化にも努めその道筋を明確にした。

また、情報化の推進においては、新しい時代の潮流に乗り遅れないためにも、当組合の広報委員会、及びホームページ特別委員会の活動が中心となり、組合機関誌“組合広報”の一層の充実にも努めるとともに、組合員の一斉同報メールを軌道に乗せたほか、インターネットの活用及び普及促進など、組合の情報化推進活動を積極的に展開してきた。その成果として、組合員の情報化にむけての意識改革やコンピュータの普及・拡大に、一定の前進を見ることができ、ITへの対応などを進

めるうえでの組合の情報化推進の着実な一歩を踏み出すことができた。

以上のように、平成15年度は、年度当初の組合運営の基本方針を踏まえ、大きく四分野の主要課題を、具体的に取り組んできたが、いまだ、組合員の皆様のご期待に十分お応えできているとは言えない。私達を取り巻く環境が、変化の激しい、また、厳しい状況下ではあるが、当組合が抱える様々な困難な課題に、全力で取り組んできたことへのご理解をいただくとともに、一年間、組合員及び関係者の皆様のご支援、ご協力に、厚く御礼を申し上げる。

主要事業

① 定款をはじめ諸規則の改正

「中小企業基本法」や「中小企業団体の組織に関する法律」の改正等に伴い、当組合の定款も、これからの時代に即応するため、従来からの改正箇所をも含めて、定款の全面変更を行った。変更のポイントは、具体的に中小企業者の定義の変更や業界の安定・合理化のための調整事業の削除、文章表現の変更、支部名称（城南、品川、大田の各支部）の変更、理事定数、副理事長定数の一部改正等を行った。

定款の改正に伴い、規約や規程等の点検と見直しに着手し、精力的に検討を重ねるなかで、理念と現実の中での、困難な課題にも直面したが、今日の時代に即応した諸規程を、概ね、体系的に整備した。

② 環境問題への取り組み

排水規制に関しては、「ほう素」「ふっ素」等の暫定基準が、平成16年6月末には、期限切れになることから、現行暫定基準値での適用期間の延長や日間平均排水量50m³未満の小規模事業所への排水基準値の適用除外の措置、また、分析機器等の購入費用への特別助成など、環境省や国土交通省、東京都下水道局など、関係方面に積極的に働きかけた。

また、東京都環境確保条例の施行に関して

は、条例とPRTTR法の窓口の一本化や届出の簡素化を求めたこと、情報開示による組合員事業所の不利益の排除など、運用面についての特別な配慮を求め、東京都との話し合いを重ねるなかで、信頼関係を築き、業界の実情への理解を深めることができた。

さらに、土壤汚染に関しては、土壤の浄化処理技術の開発について、東京都の積極的な技術支援と財政措置を求めるとともに、汚染土壤の処理費が異常に高く経営に深刻な影響を及ぼすことから、処理費用への特別の財政支援と税制上の特別の措置を重ねて、お願いした。その手法として、業界の実情を継続的に訴え、理解を求めるとともに、国や東京都など、関係機関に積極的な要請行動を展開し、また、速やかな対応と誠意ある行動に努め、行政に対し、積極的に働きかけてきた。

③ 環境科学研究所の運営と諸事業の推進

組合員事業所の工場排水分析、作業環境測定、汚泥分析のほか、有害大気汚染物質の測定などを精力的に進め、組合員事業所のサービス向上に努めるとともに、埼玉県など、組合員事業所以外の広域需要にも積極的に対応し、需要拡大に努めた。また、昨年度の新規事業として、国の「課題対応技術革新促進事業」を受託し、当組合の研究課題である「環境を配慮した小物製品への三価クロム浴に関する研究調査」の技術的可能性、事業化の可能性に向けての研究調査(F/S)を実施し、その成果に対して、平成15年度、特許を申請するなど、大きな収穫を得ることができた。さらに、土壤汚染対策法に基づく指定調査機関の指定を受けたことを機会に、積極的に土壤汚染問題に取り組み、7件の土壤汚染の調査を実施しました。また、当研究所は、ISO14001認証取得をめざし、その準備のための事務作業を進めてきた。

④ 環境プロジェクトの立ち上げと運動

昨年11月5日、当組合独自の運動母体として、「環境プロジェクト」を立ち上げ、組合員の皆様のご支援のもと、昨今の津波のように押し寄せてくる環境規制問題に、真正面から取り組み、また、真剣な検討を重ねるなかで、具体的提案を機会あるごとに行い、時代に即

した新たな組合活動の一端を運動として、内外に強くアピールしてきた。

「環境プロジェクト」から、発信される要請運動の展開の方向は、業界や企業が、生き残りにかける新たな組合の姿勢や戦略と、重なり合うものとなった。

まだ、立ち上げてから、5か月余の歳月ではあるが、総勢8名の委員での、精力的に進めた検討会議や、要請運動の中で、組合が直面する問題の把握、関係機関等への要請行動、運動展開の理論構築など、要請活動を運動としてスタートさせ、排水基準の暫定期間の再延長など、一定の運動成果をあげた。

⑤ 人材育成と高等職業訓練校の運営

明日のめっき業界を支え、人材の育成を図るため、当該訓練校の運営や、各種資格取得のための講習会等を実施した。なお、訓練生には、「東京都1種公害防止管理者」、「特定化学物質等作業主任者」などの資格取得を奨励し、人材育成の面や、社会的地位の向上の面で寄与しました。また、「毒物・劇物取扱者」「特別管理産業廃棄物管理責任者」の資格取得にも力を入れ、プロパーとしての養成にも成果をあげた。

⑥ 技能検定の実施

技能検定は、職業能力開発促進法に基づき、それぞれの段階で、受検者の技能の程度を一定の基準(レベル)によって検定することにより、受検者の社会的・経済的地位の向上を図ることを目的とした国家検定制度で、平成15年度も、東京都職業能力開発協会の委託によるめっき業の技能検定を2日間にわたって実施し、有能かつ高度な技術者・技能者の育成に努めた。

⑦ 組合広報の発行と組合ホームページの充実

組合機関誌「組合広報」の編集方針や編集内容等を見直し、組合相互の情報交換・交流の場として、その充実を図るとともに、「見て頂ける、読んで頂ける、親しんで頂ける」広報誌づくりに努めた。また、組合ホームページの充実に努め、組合員専用掲示板を新設するなど、ホームページの大幅な更新と円滑な運営に取り組むとともに、パソコンの普及とインターネットへの接続を支援し、高度情報

化社会に積極的に参画できるよう、意識の改革を促すことに努めた。

⑧ モノづくりにおいて、東京都立産業技術研究所との共同研究及び技術提携

平成10年度から続いている“モノづくり試作開発支援整備事業”として、蛍光X線分析装置や3次元測長型走査電子顕微鏡を活用して、環境科学研究所の分析技術の向上や訓練生の実習・実技・そして、組合員事業所の研究開発の一助に、大きな成果をあげた。また、モノづくり現場に対しては、グリーン調達の観点から六価クロムフリーの化成皮膜、三価クロムめっき、鉛フリーのはんだめっきなどが要求されるようになったので、これらの技術的問題を解決するため、東京都立産業技術研究所の全面的な技術支援や指導をあおぎ、問題解決の一助に成果をあげることができた。

⑨ 巡回健康診断

健康保険組合未加入事業所や組合本部事務局職員の健康診断を、巡回検診車により、春秋2回実施し、組合として、組合員及び関係者の健康の保持・増進を図るため、健康管理の徹底に努めた。

⑩ 委員会・部会

各委員会は、各々の課題や事業について適切な提言・報告・協議・情報交換を行い、組合事業運営の円滑化を図った。また、部会は、亜鉛めっき部会、工業用クロム部会などが、それぞれ研修や情報交換等を行い、それに対し、当組合は、そのための場と機会を提供し、その活動を側面から、積極的に支援した。

⑪ 関係団体等

東京都産業廃棄物問題協議会・下請取引適正化推進員協議会、傷病共済事業運営協議会など、行政機関の組合運営に関わる各種会議に参画するとともに、東京都職業能力開発協会や東京都中小企業団体中央会など、特別法の目的をかかげた団体、さらには全国鍍金工業組合連合会など、業界全国組織など、業界及び関係団体などに、積極的に参画し、意見交換や外部情報を収集するなかで、当組合の円滑な運営に貢献した。

組合員数及び出資口数(出資金1口4千円)

前年度末組合員数 542、出資口数 52,417、本年度増加組合員数1、出資口数10、本年度減少組合員数24、出資口数1,813、本年度末組合員数519、出資口数50,614

平成15年度決算報告

貸借対照表及び損益計算書は19,20頁掲載。

平成15年度剰余金処分

(平成15年4月1日～16年3月31日)

I. 当期末処分利益	8,151,607 円
1. 当期利益	3,932,233 円
2. 前期繰越利益	4,219,374 円
II. 剰余金処分額	4,000,000 円
1. 利益準備金	1,000,000 円
2. 特別積立金	3,000,000 円
III. 次期繰越利益	4,151,607 円

監査意見書

中小企業団体の組織に関する法律第47条において準用する中小企業協同組合法第40条第1項により平成16年5月6日理事から提出された平成15年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案を監査した。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する帳簿、書類を閲覧し、計算書類について検討を加え必要な実査、立合、照合及び理事からの報告の聴取その他相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

(1) 事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく表示しているものと認める。

(2) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しているものと認める。

平成16年5月6日

監事	鈴木	健吾
	田中	秀和
	岩井	春治
	海野	吉正
	小倉	攻一

東鍍工組・平成 16 年度事業計画 環境問題への取組み等 4 本柱の推進を

経済社会の動向と課題

今後の景気動向は、どのようなものか。そのポイントは、昨年来の輸出・設備投資主導の景気回復が、個人消費等に波及し、本格的な景気拡大局面に移行するか否かであると言われている。鍵を握る米国経済の動向をながめると、低金利や減税効果等から、足元は、力強い成長になっているが、今後、成長の度合は、鈍化していくものと予測されている。要因として、雇用、所得環境の改善の遅れや企業の過剰設備、そして、双子の赤字など、構造的問題等が足枷となって、現状の成長をそのまま継続するのは難しく、米国の金融財政政策が限界にきているのではないかと考えられ、さらには、イラク情勢の昏迷化の影響などが、想定される。

一方、国内の動向をながめると、厳しい雇用や所得環境にもかかわらず、個人消費の意外な底固さと、人件費など、コスト削減効果等による企業収益の改善が、現在の景気を支えているともいえるが、全体としては、需給ギャップや雇用状況、設備の過剰感は、依然として根強く、企業のリストラも続くことが考えられ、国内経済の厳しさが続くものと思われる。

また、公共投資や住宅投資等の景気下支え効果も余り期待できず、金融機関の不良債権処理問題も、継続することが予想されるとともに、銀行の貸出先の選別は、一段と強まる見通しが考えられ、全体として、景気は、当面、緩やかなものに止まるのではないかと考えられている。

中小企業の景況は、企業収益の伸び悩み、企業間、業種間での好・不調の差の明確化、大都市圏と地方圏での景気回復度合いの格差など、全ての中小企業が、景気回復の恩恵を受けるまでには至っていないのが現状である。

一方では、デフレ傾向が続く、生産拠点の海外移転が、急速に進む状況下にあっても、景気回復下であっても、売上げの拡大は期待できないのではないかと。という声も伝わってくる。中小企業は、生き残りをかけて、個々

の企業が、新たな事業・分野のみならず、限られた生産工程や事業・製品分野の中にあっても、イノベーション(革新)を持続的に追求していくことが、一層重要となってくると思われる。

多くの中小企業にとっては、経営資源が限られ、取り巻く環境も厳しさを増してはいるが、危機感を踏み台に、環境変化を、むしろ、チャンスと捉え、直面する困難に、積極果敢に挑戦していくことが、今、まさに、求められているといっても過言ではない。

このように、我が国の経済社会の動向は、平成 16 年度、景気は回復基調にあるといえ、内外の様々な要因で、先行き不透明であり、経営の舵取りの難しい状況が続くものと思われる。

我が国のモノづくりは、今、瀬戸際に立たされていると言われているだけに、めっき業界においても、深刻な問題が山積している。デフレ不況や厳しい経営環境のもと、産業空洞化等によるめっき需要の激減対策をはじめ、環境規制問題、産業廃棄物の処理・処分の問題、処理技術の開発・促進、人材の育成・強化と後継者問題、高度情報化推進方策など、早急に取り組まなければならない。

当組合としては、これらの問題解決に向けて、英知を結集し、可能な手法を駆使して、経営基盤の強化に努めながら、めっき業界の発展・向上をめざし、一步一步着実に成果をあげるべく取り組みの努力を必要としている。

中小企業の生き残りをかけた守りと攻めの事業展開が、今、再びはじまろうとしている。

組合運営の基本方針

私達、めっき業界を取り巻く経済社会環境は、今後、どのような変化を見せるのか。長期化している複合不況の波は、一向に静まることなく続き、倒産や失業など、過去に経験したことのない深刻な事態に直面している。構造デフレが進行するなか、私達は、どのようにして、事業経営の舵取りを行い、めっき業界や中小企業の再生に結びつけていったらよいのか。大変、難しい課題に直面している。

私達は、先行きの不透明感を抱きながらも、今、この厳しい現実を直視し、事業経営の再構築、生き残りをかけて、常に、前向きに努力を続けている中小企業者の姿が、組合運営の基本方針に沿い、重点課題に取り組む、組合の姿勢と重なってくる。

新年度、組合の具体的な事業を積極的に展開するため、経済社会の動向を踏まえ、組合運営の基本方針に基づき、組合員の皆様の声を十分把握したうえで、組合の本部・支部一体となった取り組みを積極的に進め、この難局を乗り越えてまいりたいと思う。また、関連団体や、関係行政機関との連携を一層強化し、組合の諸事業の効果的な推進に努める決意を新たにした。平成 16 年度組合運営の基本方針は、次の 4 つの柱から成り立っている。

① 環境規制問題への取り組み

まず、東京都環境確保条例（平成 13 年 10 月 1 日「化学物質の適正管理」）施行では、東京都が有害物質を取り扱う事業所に、対象となる有害物質の取扱量の報告を義務付けるなど、国の PRTR 法により、一層厳しい内容となっている。私達は、東京都との度重なる話し合いの中で、施行にかかわる運用面での特別の配慮を求めてきた。しかし、いまだ不十分であることから、今後も、一層、業界要望の実現に努力してまいる。

つぎに、土壤汚染問題では、「土壤汚染対策法」の施行により、事業所への各種規制や義務付けなど、事業者の責務が新たに規定され、汚染土壤の浄化等の処理技術の開発が遅々として進まないなかで、企業の存続に関わる深刻な問題に発展しようとしている。私達は、業界・企業の実情に即した経済的かつ簡易な処理技術の確立を求めて、東京都立産業技術研究所の技術指導やノウハウをあおぎ、また、連携強化に一層努めるなかで、直面する技術的課題に取り組んでまいる。さらに、排水規制に関しては、環境省において、本年 6 月末日に期限切れを迎えるほう素、ふっ素等の暫定排水基準を、さらに 3 年間の再延長する方向で、事務手続きをしていこうとしているが、現行暫定基準値の維持、処理技術の開発促進、小規模事業所への排水基準値の適用除外の措

置、不況業種へのめっき業の指定など、残された課題もあるので、意見募集（パブリック・コメント）も含め、今後、国土交通省や環境省、または、東京都下水道局へ粘り強く働きかけていく。

また、昨年 11 月 5 日には、当組合独自の運動母体として、組合「環境プロジェクト」を立ち上げ、組合員の皆様のご支援のもと、環境規制問題に、真正面から取り組み、運動を展開する。

② 人材の育成・強化

組合併設の高等職業訓練校を中心に、新しい時代に即応できる人材を育成し、強化していく。とりわけ、高度な職業能力を有する人材、豊かな創造性を有する人材、そして、困難に果敢に挑戦する意欲ある人材の育成・強化に心がけていく。また、働く人々の技能習得意欲を増進させ、社会的、経済的な地位の向上を図り、産業の発展に寄与するため、技能検定制度を有効活用するとともに、各種の資格取得の普及・拡大に努め、めっき業界を支える有能な技術者・技能者の育成・強化と技能士制度の普及などに、一層、力を注いでいく。

③ 処理技術の開発・促進と製品の高付加価値化

東京都立産業技術研究所など関係調査研究機関との連携を一層強化し、排水や汚染土壤の処理技術など、新しい技術の開発促進に努めるとともに、中小企業総合事業団の課題対応技術促進事業の一環である、新技術研究調査(F/S)事業推進の成果を、環境科学研究所の機能強化や組合員事業所の技術サービス向上に、積極的に活用していく。また、国や東京都に対して、処理技術の開発促進に関わる技術ノウハウの提供や技術指導を求めるとともに、設備・機器の貸与や提供など、技術に関わる特別の財政措置など、強く求めていく。

④ 高度情報化の推進

読みやすく、親しみのもてる紙面づくりをめざし、組合機関誌「組合広報」の充実に一層、努めるとともに、組合ホームページの大幅な更新・充実、インターネットの普及・促進など、組合の高度情報化推進活動を積極的

に展開し、組合員の皆様の意識向上と啓発活動をさらに進め、真の組合情報ネットワークの確立を強力に推進していく。また、情報格差を解消し、組合員が共に高度情報化社会に参画できるよう、組合員の高度情報化推進の具体的方策を検討していく。

新年度を迎え、決意を新たに、当組合の運営方針の4つの柱、即ち、環境規制問題への取り組み、人材の育成・強化、処理技術の開発・促進と製品の高付加価値化、高度情報化の推進を、組合の主要課題として位置づけ、その取り組みにより、希望に燃えた輝かしい年にしたいと考えている。また、組合併設の環境科学研究所が、ISO14001の認証取得をめざし、その準備を計画的に取り組んでおり、新年度、具体的作業を精力的に進め、組合自らが環境保全のモデルとして、環境に配慮した組織づくりを進めていく。また、「困難な課題に、果敢に挑戦する組合」をモットーに、組合執行部一同は、組合員各位及び組合事務局職員とともに、組合諸事業の推進に、全力で取り組んでまいるので、なお一層のご支援、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成 15 年度経費の賦課金並びにその徴収方法

1. 賦課率

平等割	1 組合員	月額	3,500 円
人等割	1 人	月額	140 円
2. 賦課金額

平等割	3,500 円×519 組合員×12 ヶ月	31,946,880 円
人等割	140 円× 6,041 名×12 ヶ月	

 但し、支部事務費として賦課金の 3%を支部に還元する。

センター修繕費	5,324,480 円
---------	-------------

 但し、支部事務費としてセンター修繕費の 3%を支部に還元する。

	159,734 円
--	-----------
3. 徴収方法

毎月末までに、その月分を納入するものとする。

センター修繕費は、各組合員賦課金の 1 ヶ月分を 7 月と 11 月に合計 2 ヶ月分徴収する。

4. 消費税

賦課金は課税対象外として取り扱うので課

税仕入れにはならない。

平成 16 年度収支予算

(平成 16 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

収入の部	平成 15 年度 予算	平成 16 年度 予算
<事業収益>	137,519	137,660
賦課金収入	32,189	30,988
センター維持基金	5,365	5,165
事業外収益	2,968	2,320
収益合計	178,041	176,133
<費用の部>		
事業費	53,496	54,290
一般管理費	118,539	119,589
予備費	2,000	2,000
費用合計	174,035	175,879
損 益	4,006	254

資金計画

(平成 16 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

<資金運用> (単位：千円)

1. 固定資産の増加 訓練校設備	1,997
2. 固定負債の減少 (保証金の返却)	10,000
3. 資本の減少 脱退出資金払戻等	7,800
4. 差引運転資本の増減 合 計	△4,707 15,090
<資金調達>	
1. 固定資産の減少 (減価償却費)	7,300
2. 資本の増加 (出資金の増加)	5,536
3. 利 益 合 計	2,254 15,090

平成 16 年度借入残高の最高限度額

30,000,000 円

平成 16 年度常勤役員報酬額限

7,200,000 円

公防協組・平成 16 年度事業計画 安全・確実な処理と組合の枠に囚われない営業を

基本方針

ようやく昨年度末から景気回復が本格化していることを感じており、組合の主事業であるシアン集荷実績は下げ止まった。しかしながら、電気めっきを主たる事業とする組合員の状況は依然として好転を感じるには程遠い状況にある。そうしたことから本年度においても自己変革による合理的な運営を行っていく。環境保全は、地球環境の保全から、規制対象物質の増加や規制値の強化に加えて新法の制定などで新たな取組みの必要があり、より高度な環境保全対策を求められている。本年度は、1. 個別改善：①ムダ、ロスを排除する改善活動②コストミニマムの追求 2. 自主保全：①オペレーター自ら設備保全を行う体制づくり②設備生産性向上 3. 計画保全：①設備信頼性向上②保全費低減活動 4. 品質保全：①処理不全の排除②処理条件設定・条件管理 5. 安全環境：①災害・公害ゼロ体制②快適環境づくりなどの環境管理システムの立ち上げを行う。

引き続き、安全・確実な処理を行うとともに処理コストの削減を継続して安心して組合事業を利用して頂ける環境造りに努力する。

また、平成 15 年 2 月に環境省の土壤汚染状況調査指定機関として指定を受け、共同事業として関係会社等の協力を得ながら取り組んでいる土壤汚染対策について引き続き事業を継続する。城南処理センター周辺の環境保全、臭いの原因である硫化水素低減対策やリサイクル等の技術開発は、公設試験研究機関、大学及び関係会社の協力を得ながら、課題に取り組んでいく。

当組合の主事業である共同公害防止事業は、毎期定期修理に多額の費用を掛けて維持を図っている。技術の陳腐化、設備の老朽化を視

野に置いて計画保全を計る。中小企業高度化資金借入の返済は順調に進んでいるが、返済が平成 26 年まで続く。本年度は、一部の減価償却資産の償却が終了したことから受注が安定すれば所期の利益を確保でき、今後想定される保全経費の資金積立を行えると考えている。

しかしながら、組合員の減少は、組合の運営形態を見直し変革を行わなければ将来を担保できないところまで至っている。

平成 16 年度においては、15 年度と同様シアン廃液集荷量を 160 キリットル/月に設定し、予算編成を行っている。めっき汚泥共同収集運搬事業は、利用状況を勘案し 15t/月減少の 110t/月として予算を編成した。

経費は、極力切り詰めているが、新たな取組みとして技術・営業強化のため職員 2 名を増員する計画で予算を策定している。

組合の組合員施策である教育情報事業やその他事業は、平成 15 年度並みに実施を予定している。

環境保全事業は将来性のある事業であり、組合の枠に囚われない営業を行いつつ、環境管理システムを確立し、厳しく自らを律することの出来る体制を充実させ、組合員サービスに努める。組合員皆様のご協力ご利用、合わせて関連の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

共同公害防止事業（有害産業廃棄物の中間処理と処理斡旋）

1. シアン濃厚廃液集荷促進と処理の円滑化

(1) 組合員の増強は、シアンを利用している電気めっき業以外の業種に営業活動を展開するとともに全国鍍金工業組合連合会傘下の組

合員へ組合加入を勧奨するなど、組織の拡大を図り、シアン濃厚廃液並びに廃アルカリの集荷量の拡大に努める。

また、シアン濃厚廃液並びに廃アルカリ排出事業所の緊急度により、迅速適切な集荷サービスを実施する。

(2) シアン等有害物質使用者に、適切な使用と廃棄物の適正処理に務めるよう注意を喚起する。廃棄物の処分にあたっては、事故を未然に防止するために、最小限の保管に止め、長期間保管しないように周知し、円滑な集荷を推進する。

(3) 組合員である転廃業者の廃棄物処理料金は、現金取引を条件として 30%の料金軽減を行う。

2. シアン系炭酸ソーダ結晶物処理の円滑化

シアン濃厚廃液処理の付帯事業としてめっきシアン浴中に発生した炭酸ソーダ結晶物のほか青化ソーダ、青化カリ等の廃薬品を付帯事業として施設で処理し、業界、官公庁、警察署等からの要請に応え、社会的使命を担っているが、処理依頼に対し、処理能力が著しく劣っており、その殆どの処理を日曹金属化学(株)に依頼してきた。本年度から、福島県と事前協議を行い許可されたものについての処理を受入れることになった。こうしたことから発生物の性状によっては、受入が出来ない場合も考えられる。そうしたことから、結晶物等を前処理し処理できる溶液とする補完設備の設置が必要と考えられるので、研究開発を行い補完設備を設置し要望に応えられる設備を整備する。

3. クロム引取幹旋業務の円滑化

(1) クロム老化液排出事業所からの集荷依頼に即応し、迅速適切な集荷サービスを幹旋する。

(2) 組合員である転廃業者の廃棄物処理料金は、現金取引を条件として 30%の料金軽減を行う。

4. 汚泥、廃酸、廃アルカリ、その他有害産業廃棄物の処理幹旋

有害な各種汚泥、廃酸、廃アルカリ、工業薬品、めっき設備等について、組合員の利便に供するため処理幹旋を行う。

5. 土壌汚染調査及び汚染土壌処理の幹旋

土壌汚染に伴う環境リスクの調査、汚染土壌処理を行う組合員の利便に供するため土壌汚染調査を行う。また、汚染土壌処理の幹旋を行う。環境省指定調査機関 指定番号 環 2003-1-827(平成 15 年 1 月 20 日)

めっき汚泥共同運搬事業(無害産業廃棄物の運搬処分幹旋)

組合員の都内事業所から発生する無機性汚泥は、都内統一料金で東京都中央防波堤埋立処分場へ収集運搬業者 9 社に委託し収集運搬する共同事業を行っている。効率的な収集運搬方法を検討し、本年度においても、委託業者の協力を得て、汚泥処分の円滑化を図る。

一般組合事業

1. 福利厚生事業

組合員見舞金規定に基づき見舞金および弔慰金を給付し、組合員の相互扶助を行う。

2. 教育情報事業

東京都鍍金工業組合と協力して発行する「組合広報」に経営、技術情報、組合役員会・委員会の運営状況や議事内容、集荷月次予定等を掲載し、組合員および官公庁、関係業界に組合事業の進行状況を紹介し情報提供を行う。

3. 環境管理推進事業

排水事故防止、環境管理認証制度への取組、東京都産業廃棄物適正処理・資源化協定(エコトライ協定)締結、電子マニフェスト制度への取組

4. 事務局業務の電算システムの効率的運用と保守

マニフェスト、売掛管理、受発注業務システムの、合理的運用及びシステムの保全管理に努める。

共同処理施設「城南処理センター」の維持管理及び安全操業

処理施設は、現在は順調な操業を行っている。高濃度シアン化合物を高温高压で処理する施設であり、維持管理及び安全操業には、引続きメーカーの指導を受けながら十分に留意しつつ操業を行う。

シアンの熱加水分解による完全無害化の確認、高度な排水処理の研究を継続して実施し、より高度な排水処理を目指すとともに、熱加水分解の合理的運用、可能性についての研究開発を継続して行う。

第2工場及び事務棟の有効利用

事務棟1階部分に設置した駐車場については、組合保有車の駐車に当てるほか、継続して関係者に賃貸する。未利用部分については、賃貸を含め利用を促進する。

事業計画

1. シアン濃厚廃液の共同処理事業

(特別管理産業廃棄物の中間処理)

月間集荷目標 200 ^{キログラム} (予算 160kl)

月間処理目標 200 ^{キログラム} (予算 160kl)

月間集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	10.0 ^{キログラム}	745 千円
1月	200 ^{キログラム}	14,894 千円
1年	2,400 ^{キログラム}	178,730 千円

集荷処理料金

組合員 都内集荷 ^{リットル}当り 80 円

持込 ^{リットル}当り 60 円

一般 都内集荷 ^{リットル}当り 80～110 円
を基本とする。

収集運搬：東京鍍金公害防止協同組合
大森興産株式会社

中間処理：東京鍍金公害防止協同組合

処理方法：シアン化合物の分解

処理能力：日量最大 16 ^{キログラム}

月当り最大 300 ^{キログラム}

貯留能力：最大 160 ^{キログラム}

2. シアン系炭酸ソーダ結晶物の共同処理(特別管理産業廃棄物の中間処理)

月間集荷目標 ^{水溶性シアン化合物(汚泥)} 900kg

月間処理目標 900kg

集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1日	43kg	3.9 千円
1月	900kg	81 千円
1年	10,800kg	972 千円

集荷処理料金

組合員 持込 kg 当り 90 円

一般 持込 kg 当り 100～115 円

総平均 持込 kg 当り 91 円

収集運搬：排出事業者が搬入する。

中間処理：東京鍍金公害防止協同組合

処理方法：シアン化合物の分解

処理能力：日量最大 250kg

月当り標準 2,500kg

保管能力：最大 8,000kg

3. その他産業廃棄物の処理斡旋事業

(産業廃棄物の収集・運搬 [保管・積替えを含む])

取扱品目 廃酸、廃アルカリ、汚泥、廃油、
廃プラスチック類、金属くず、燃えがら、ガラスくず及び陶磁器くず以上8種類

手数料率：斡旋集金手数料 10%

収集運搬：東京鍍金公害防止協同組合

処分：ミヤマ株式会社

4. めっき汚泥共同運搬事業

取扱品目：汚泥(排水処理施設から発生する無
害無機性汚泥)

月間目標 110t

集荷処理数量

期間	集荷処理量	集荷処理料金
1 日	5.5t	113 千円
1 月	110t	2,266 千円
1 年	1,500t	27,192 千円

取扱料金

総平均 トン当り 20,600 円

東京都処分料金 トン当り 10,000 円

収集運搬費 平均 トン当り 10,600 円

収集運搬：日本サニティション(株)

(株)丸三興業

(有)菅原商事

(株)メイシン

(株)フジ・プランナー

総武環境整備(株)

(有)かすが商事

(株)三 美

大森興産(株)(三明化成(株))

処分先：東京都処分場(中央防波堤外側埋立地)

6. 土壌汚染調査事業

取扱品目 土壌汚染調査 環境大臣指定調査

機関 指定日 平成 15 年 1 月 20 日

指定番号 環 2003-1-827

平成 16 年度収支予算(単位：千円)

(平成 16 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
事業収入	200,336	事業費	165,574
賦課金収入	1,368	一般事業費	1,700
事業外収入	8,726	管理費	42,130
特別利益	1,190	特別損失	190
		予備費	2,026
合計	211,620	合計	211,620

平成 16 年度経費の賦課金額並びにその徴収方法

平成 16 年度賦課金額の総額は 1,368,000 円とし、次の方法により徴収する。

1. 賦課金額

均等割 1 組員 月額 200 円

2. 徴収方法

毎月末までにその月分を支部で取りまとめ
て納入するものとする

3. 消費税

賦課金は、課税対象外として取り扱うので
課税仕入れにはならない。

平成 16 年度借入金額の最高限度

340,000,000 円

平成 16 年度役員報酬額限度

7,800,000 円

平成 16 年度資金計画(単位：千円)

(平成 16 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

資金運用		資金調達	
借入金返済			
高度化資金	35,928	前期繰越	203,750
熱加水分解工程改善	10,000	出資金	30
法人税等支払	1,981	必要利益	2,026
消費税支払	3,309	減価償却	36,038
脱退者出資金払戻	1,060		
差引運転資金	189,566		
合 計	241,844	合 計	241,844

公防協組・平成 15 年度事業報告 前年度を上回る実績を上げる

概況

今年 1 月の月例経済報告で、政府が正式に日本経済の回復宣言を打ち出した。基調判断に「回復」が盛り込まれたのは 3 年ぶりであるが、個人消費などの回復機運には高まりが見られず、業界の景気実感も回復には程遠いというのが本音である。健康保険や年金などの総報酬制が開始され賞与からの保険料、掛金が拡大されたが、加えて 10 月からは、年金保険料の引き上げが決まっており、負担増が相次いでいる。不安要素として、昨年末に米国で B S E (狂牛病) がみつきり、米国産牛肉の輸入が禁止された。年明けに鳥インフルエンザが日本でも確認され景気回復に影を落としている。金融不安も足利銀行の一時国有化など地方銀行の経営に改めて注目が集まっている。

環境問題は、東京都環境確保条例、土壌汚染対策法などの多くの規制基準への対応が不可欠で経営上の最重要課題となっている。対応が困難な事業所は、事業廃止のやむなきに至る場合が殆どであるが、事業廃止に伴い廃棄物処理、土壌調査・処理で多額の費用が必要になり、加えて土壌汚染が判明すると跡地の利用が制限されるなど、土地取引等に深刻な影響が出ている。

組合事業は、組合員皆様の絶大なるご支援を得て運営しているが、本年度は、利用量は前年度(14 年度)を上回る実績を上げた。加えて、金銀銅滓の品位が向上したことに加えて金相場が高めで推移したことにより、金銀銅滓を高額で売却することができた。また、事業廃止事業所の廃棄物処理や土壌調査・処理などが売上に貢献したことにより、決算で利益を計上することが出来た。こうしたことによる好況で 11 年を経

過した現有建物・設備の補修を実施することが出来た。

今年度の共同公害防止事業は、シアン濃厚廃液 2,160 キロリットルを処理し、前年比 2.5% 増、月当たり 160 キロリットルの予算に対し 12.5% 増の 180.0 キロリットルの実績となった。

炭酸ソーダ結晶物等の持込処理は、前年比 4.1% 増の 15,645kg、クロム引取幹旋は、前年比 10.8% 増の 7,900kg を取り扱った。その他に組合員事業所の工場廃止に伴う廃液処理、土壌汚染調査等を取り扱った。

めっき汚泥共同運搬事業は、延べ 428 事業所と昨年度を 38 件下回り、集荷量は、前年比 6.8% 減の 1,377,320kg を取扱った。

福利厚生事業は、弔慰金等の給付を行った。教育情報事業は機関紙「組合広報」を工業組合と共同発行した。

以上、シアン濃厚廃液集荷量は年度始めは前年と比較し乱高下したが、年明けからは前年実績を上回る受注状況で推移している。めっき汚泥共同運搬事業は、前年を大きく下回る実績が続いており、依然として厳しい状況にある。

組合は、皆様が、シアン濃厚廃液処理を中心とした産業廃棄物処分を安心して委託できるよう事業を行っていく。環境保全対策は、組合員皆様が事業を行うためには、今後とも必要不可欠であるが、廃棄物処理は制約が強化されるばかりで、受入が厳しく制限される中で、新たな取り組みが必要となっている。組合は、組合員皆様のご意見ご要望を踏まえお役に立てる事業を皆様の総意をもって実施してまいりますので今後ともご支援ご協力を賜るようお願い申し上げます。

組合員数及び出資口数

(出資 1 口 10,000 円)

前年度末組合員数 604、出資口数 2,545、
本年度加入組合員数 1、出資口数 3、本年度
脱退組合員数 27、出資口数 94、本年度末組
合員数 578、出資口数 2,454

1. 共同公害防止事業

(1) シアン濃厚廃液の処理事業

加熱加水分解法によるシアン無害化施設
は、機械設備の更新・工程改善、施設の保
全を重ねながら、概ね順調に稼働している。

シアン廃液の集荷量は、めっき業以外の
業種のシアン廃液の受け入れで、年間総量
は、前年実績及び予算を上回った。めっき
業界の景況は好転していないので、従前同
様の厳しい環境に晒されている。めっき業
以外の業種からの受け入れが増加している。
組合員の、事業廃止などでめっき業からの
受け入れは減少しており、仕事量の減少を
反映する結果となっている。

シアン廃液の年間計画集荷量は 2,400 キ
ロリットル(目標)、1,920 キロリットル(予算) 料金収入
予算 178,730 千円(目標)、140,796 千円(予
算)に対し、実績は、集荷量 10.0%減(目標
ベース)、12.5%増(予算ベース)の 2,160 キ
ロリットル、16.4%減(目標ベース)、6.1%増(予
算ベース) 149,418 千円となり、月当り
180.0 キロリットルの集荷となり目標は達成でき
ていない。

ア. 標準処理能力 300 キロリットル/月

イ. 集荷実績 180 キロリットル/月

ウ. 処理実績 181 キロリットル/月

エ. 稼働率 60.3%

オ. 転廃業等減額 277,200 円/5 件/年

(2) シアン系炭酸ソーダ結晶物等の処理事業

シアン濃厚廃液処理の付帯事業である炭
酸ソーダは、当期は前年比 4.1%増の

15,645kg、料金収入 1,406 千円となった。処
理委託先の日曹金属化学(株)への処理依頼
は、福島県との事前協議が必要となる。(平
成 16 年 4 月以降)

ア. 標準処理能力 8,000kg/月

イ. 取扱実績 1,304kg/月

ウ. 利用料金収入 117 千円/月

(3) クロム濃厚老化液の引取幹旋事業

シアン処理事業と並行して行われている
クロム引取事業は、当期は 7,900kg を取扱
い、前年比 10.8%増となった。

処理が出来るところが限られており、濃
厚廃液の処理費用が高騰している。処理委
託先とリサイクル技術開発に取組む必要が
ある。

ア. 幹旋実績 658kg/月

イ. 転廃業等減額 30,000 円/1 件/年

(4) その他の処理幹旋事業

青化カリ、青化ソーダ等シアン系廃工業
薬品等の取扱いの他に、廃業工場の産業廃
棄物処分、土壌調査、土壌汚染拡散防止な
どを受注した。

事業実績 24,525,792 円

(5) 有価物売却

シアン濃厚廃液中に含まれる有価金属は、
金属硫化物として回収され金銀銅滓として
売却される。平成 15 年度は、56,620kg 回
収した。有価物の回収量は前年比 22.8%減
少したが、品位が向上及び金相場が高かつ
たことにより、金額ベースで 35.7%増加し
た。

1. 有価物売却収入 65,006,342 円

2. 金属有価物(在庫) 4,598,100 円

2. めっき汚泥の共同運搬事業

年間目標 1,500 トンの取扱いを見込んだ
が、取扱実績は、1,377 トン、91.8%の達
成率となり、計画を大きく下回った。

3. 福利厚生事業

表彰規程の改定に伴い、役員・委員に記念品を贈呈した。3,027,000円

退任役員・委員に記念品を贈呈した。
420,000円

組合員見舞金規程に基づき見舞金および弔慰金を給付し、組合員の相互扶助を行った。

ア. 祝い金	1件 50,000円
イ. 死亡弔慰金・花輪代	23件 430,000円
計	24件 480,000円

4. 教育情報事業

(1) 組合機関誌の発行

組合機関誌として東京都鍍金工業組合と共同して「組合広報」を毎月発行し、組合員及び官公庁、関係業界に配布し、組合事業の進捗状況を詳細に紹介しつつ活発に情報提供を行った。

(2) 業界関係者への宣伝活動

めっき業界の団体機関紙等に事業広告を行い、関係者に理解と認識を訴えた。

(3) 支部産業展への助成

3支部(城東、足立、葛飾)が3地域(江戸川区、足立区、葛飾区)の地元区主催産業展に出展したので、これに助成し、めっき製品と業界イメージアップを奨励した。

5. 事務局業務の総合電算化

マニフェスト、売掛管理の電算化とともに財務経理との一連システム及び大森興産(株)とのネットワークは順調に稼働している。

電子マニフェストシステムの利用については排出事業所の同制度への参加が少ないので現況では有効に利用出来ていないが、インターネット利用での登録が可能なウェブ版が普及しつつあるので、利用が増加すれば利用の有効性がある。

平成15年度決算報告

貸借対照表及び損益計算書は21頁に掲載。

平成15年度剰余金処分

(平成15年4月1日～16年3月31日)

I. 当期末処分利益	17,089,592円
II. 剰余金処分額	11,000,000円
1. 特別積立金	5,000,000円
2. 教育情報事業繰越金	1,000,000円
3. 施設維持積立金	5,000,000円
III. 次期繰越利益	6,089,592円

監査意見書

中小企業等協同組合法第40条第1項の規程により、平成16年5月6日理事から提出された平成15年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案を監査した。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する帳簿、書類を閲覧し、計算書類について検討を加え必要な実査、立合、照合及び理事からの報告の聴取その他相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

(1) 事業報告書、財産目録、貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく表示しているものと認める。

(2) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しているものと認める。

平成16年5月6日	監事	田中秀和
		鈴木健吾
		海野吉正
		小倉攻一
		岩井春治

十日会賞表彰 菊池忠男氏受賞 協組 松田産業(株)武蔵工場に 8 万 kl 達成の感謝状贈呈

両総代会終了後、表彰式を行った。はじめに平成 16 年度第 33 期十日会賞表彰が菊池忠男氏(組合常任理事、葛飾支部・光陽鍍金(株))に贈られた。

八幡順一副理事長が、菊池氏の功績について次のように披露した。

昭和 56 年 5 月、当組合理事に就任以来、終始、めっき技術の向上に精励し、とりわけ、亜鉛めっきにおいて、クロメート処理で、均一な厚さに析出する技術や、耐食性によい皮膜、小スペース自動めっき装置のスプレー洗浄技術などを確立し、めっきの品質向上に尽力された。一方、業界を支える後進の指導・育成にも力を注ぎ、職業訓練校指導員として、電気めっきの国家検



定試験への合格率向上に寄与し、その活躍が認められて、平成 3 年 11 月には、技能検定の功績として、東京都知事表彰を受賞された。また、環境委員会委員長として、環境規制問題に真正面から取り組むとともに、環境プロジェクトの一員として暫定基準の延長にも尽力された。さらに平成 12 年 3 月には、高度熟練技能者として、中央職業能力開発協会会長より認定され、表彰を受けるとともに、平成 12 年 10 月には、東京都優秀技能者として東京都知事表彰を受賞された。このように環境問題や後継者の育成、業界の技術向上等に献身的に努力されたことを評価した。

菊池忠男氏は、大村功作理事長から表彰状、斉藤晴久十日会会長から記念品を受けた後、「栄えある十日会賞を頂き感謝申し上げます。現在、環境委員長、環境プロジェクト委員を仰せつかっている。城東支部長が若いうちの苦労は買ってでもしろと言われるがめっき業界にはいくらでも苦労があるという話をしていたが、これからは業界、組合のために少しでもお役に立つよう頑張っていきたい」と謝辞を述べた。

続いて公防協組が、シアン集荷処理 8 万キロリットル達成を記念して松田産業(株)武蔵工場に感謝状を贈呈した。3 月 25 日に松田産業(株)武蔵工場から集荷した廃液をもって 8 万キロリットルを達成したものでこれまでも 1 万キロリットル達成毎に該当事業所に感謝状を贈っている。



第二部懇親会に先立ち、去る 3 月 17 日の参議院予算委員会で森本議員がほう素ふっ素等の暫定基準の延長を求めた質疑応答のビデオを上映した。平野普三雄総財務委員長の司会により、川上洋一副理事長、大村功作理事長の挨拶の後、来賓として小杉隆衆議院議員をはじめ各界代表者の挨拶を頂き、草間英一顧問の乾杯音頭で懇親会に入った。

貸借対照表

平成 16 年 3 月 31 日

東京都鍍金工業組合(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【資 産】		【負 債】	
I.流動資産		I. 流動負債	
現金	395,869	買掛金	1,944,902
当座預金	2,617,730	前受金(クーポン券)	25,841,928
普通預金	53,424,867	預り金	6,711,239
定期預金	58,761,662	脱退者出資金	8,688,695
吉川賞引当資産	5,935,381	技能検定受験料預り金	18,800
十日会賞引当資産	3,995,189	未払法人税等	1,944,017
虎石賞引当資産	2,396,363	未払消費税	1,547,800
新技術開発基金	4,710,880	流動負債 計	46,697,381
現金・預金 計	132,237,941	II.固定負債	
売掛金	4,732,400	長期預り金	40,860,000
在庫品	2,230,464	退職給与引当金	1,423,830
立替金	35,875	固定負債 計	42,283,830
流動資産 計	139,236,680	負債合計	88,981,211
II.固定資産		【資 本】	
1. 有形固定資産		I. 資本金	
建物	99,877,815	出資金	202,456,000
設備	105,618,401	II.資本準備金	
機械及び装置	16,922,350	加入金	4,013,000
什器備品	37,634,537	III.利益準備金	
減価償却累計額	△ 185,725,068	利益準備金	23,050,000
土地	183,000,000	IV.組合積立金	
有形固定資産 計	257,328,035	特別積立金	41,107,779
2. 無形固定資産		センター修繕費	20,500,000
電話加入権	544,408	技術研究開発積立金	9,033,969
ソフトウェア	2,100,000	組合積立金 計	70,641,748
減価償却累計額	△ 1,940,557	V.剰余金	
無形固定資産 計	703,851	前期繰越利益	4,219,374
3. 投資等		当期利益	3,932,233
関係団体出資金	25,000	当期末処分利益 計	8,151,607
固定資産合計	258,056,886	積立金剰余金 合計	78,793,355
		資本合計	308,312,355
資産の部合計	397,293,566	負債及び資本合計	397,293,566

損益計算書

平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日 東京都鍍金工業組合(単位:円)

費 用 の 部		収 益 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 事業費		I. 事業収益	
教育情報事業費	8,142,577	教育情報事業収入	4,976,425
福利厚生事業費	5,691,302	分析事業収入	75,162,685
分析事業費	10,802,571	簡易分析薬品等収入	5,334,567
クーポン手数料	694,468	訓練校事業収入	17,249,971
簡易分析薬品等事業費	5,384,683	貸室収入	27,601,807
訓練校事業費	25,605,949	教育事業補助金収入	7,702,000
期首商品棚卸高	1,707,257	事業収益計	138,027,455
期末商品棚卸高	△ 2,230,464	II. 賦課金収入	
事業費計	55,798,343	賦課金収入	31,850,260
II. 一般管理費計		センター修繕費	5,338,390
役員報酬	7,200,000	賦課金収入計	37,188,650
給料手当	41,069,147	III. 事業外収入	
賞与	8,456,340	受取利息	334,136
退職金	235,020	受取配当金	1,100
退職共済掛金	410,000	雑収入	5,043,119
法定福利費	10,784,220	賞与引当金戻入	516,824
福利厚生費	350,410	退職給与引当金戻入	91,410
新聞図書費	245,950	事業外収益計	5,986,589
旅費交通費	3,649,782		
通信費	1,831,997		
事務用品費	585,363		
印刷費	1,161,087		
会議費	1,277,753		
慶弔費	151,750		
関係団体負担金	11,811,323		
支払保険料	281,240		
水道光熱費	3,371,818		
車輛費	1,137,961		
コンピュータ関係費	1,184,670		
修繕維持費	2,278,448		
租税公課	7,465,269		
支払手数料	4,655,624		
減価償却費	7,389,311		
顧問料	1,320,000		
雑費	1,043,132		
一般管理費合計	119,347,615		
III. 事業外費用			
雑損失	0		
IV. 特別損失			
固定資産除却損	180,486		
V. 税引前当期利益	5,876,250		
法人税及び住民税	1,944,017		
当期利益	3,932,233		
合 計	181,202,694	合 計	181,202,694

貸 借 対 照 表

平成 16 年 3 月 31 日現在

東京鍍金公害防止協同組合（単位：円）

科 目	金 額	科 目	金 額
〔資 産〕		〔負 債〕	
I. 流動資産	296,307,085	I. 流動負債	31,743,987
II. 固定資産		II. 固定負債	335,937,000
1.有形固定資産	434,860,282		
2.無形固定資産	295,324		
3.その他の固定資産	1,181,000		
固定資産計	436,336,606		
		負債合計	367,680,987
		〔資 本〕	
		I. 資本金（出資金）	24,540,000
		II. 利益準備金	34,660,000
		III. 剰余金	
		特別積立金	281,800,000
		施設維持積立金	6,873,112
		当期末処分利益	17,089,592
		剰余金計	305,762,704
		資本合計	364,962,704
資産合計	732,643,691	負債及び資本合計	732,643,691

損 益 計 算 書

（平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日まで）

東京鍍金公害防止協同組合（単位：円）

科 目	金 額	科 目	金 額
I. 事業費	95,656,250	I. 事業収入	271,199,788
II. 製造経費	136,212,450	II. 賦課金収入	1,403,600
III. 管理費	42,882,773	III. 事業外収入	9,629,575
IV. 事業外費用	190,461	IV. 特別利益	5,849,432
V. 税引前当期利益			
法人税及住民税	1,980,780		
当期利益	11,159,681		
税引前当期利益計	13,140,461		
合 計	288,082,395	合 計	288,082,395

東鍍工組・公防協組 平成15年度役員会委員会出欠一覧

(平成15年6月から16年5月)

●正副理事長会

役名	氏名\ 回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
理事長	大村 功作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	由田 猛	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	川上 洋一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
副理事長	間部健太郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
副理事長	八幡 順一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専務理事	宮澤 裕	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専務理事	小原 俊幸	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

1 回:6/9、2 回:7/2、3 回:7/9、4 回:7/12、5 回:8/6、6 回:9/3、7 回:9/18、8 回:10/1、9 回:11/5、10 回:12/3、
11 回:1/8、12 回:2/12、13 回:3/3、14 回:4/2、15 回:5/6、16 回:5/24

●工組・協組理事会

役職名	氏 名	5/23	7/2	10/14	11/5	2/12	4/2	5/6
理事長	大村 功作	○	○	○	○	○	○	○
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○	○	○
〃	由田 猛	○	○	○	○	○	○	○
〃	川上 洋一	○	○	○	○	○	○	○
〃	間部健太郎	○	○	○	○	○	×	○
〃	八幡 順一	○	○	○	○	○	○	○
工組専務理事	宮澤 裕	○	○	○	○	○	○	○
協組専務理事	小原 俊幸		○	○	○	○	○	○
常任理事	木下 健次	×	○	○	○	×	○	×
〃	柏村 一志	×	○	○	○	○	○	×
〃	木村 秀利	○	×	○	○	○	×	×
〃	高倉 利守	×	×	×	×	○	×	○
〃	内藤 雅文	×	×	×	×	○	×	×
〃	平野普三雄	○	×	○	○	○	×	○
〃	下平 誠	○	○	○	○	○	○	○
〃	小澤 栄男	○	×	○	○	○	○	×
〃	菊池 忠男	○	○	○	○	○	○	○
〃	池田 敏則	○	○	○	○	○	○	○
〃	安斎 克茂	○	○	○	×	×	○	×
〃	半田 實	○	×	×	○	○	○	×

●工組・協組理事会

役職名	氏 名	5/23	7/2	10/14	11/5	2/12	4/2	5/6
理事・支部長	遠藤 清孝	○	○	×	○	○	○	○
理事	新井嘉喜雄	○	○	○	×	○	○	○
理事・支部長	元井 民夫	○	○	○	○	○	○	○
理事	小橋 秀一	×	○	○	○	○	○	○
理事	荻宿 充久	×	×	○	○	○	○	○
理事・支部長	中澤 敏明	○	○	×	○	○	×	○
理事	小谷野英勝	×	○	×	○	×	○	○
理事・支部長	藤田 直人	×	○	○	○	○	○	○
理事	原 清一	○	○	○	○	○	○	○
理事・支部長	志田 和陽	×	○	○	○	○	○	○
理事	吉川 進	○	×	○	○	×	○	○
理事	池谷 純一	×	×	×	×	×	×	×
理事	池田 潤一	×	○	○	○	×	×	○
理事・支部長	篠根 健一	○	○	×	○	○	○	×
理事	今泉 好隆	×	○	○	○	×	○	○
理事・支部長	小嶋 摂郎	○	○	○	○	×	○	○
理事	斎藤 功	○	×	○	○	○	○	○
理事・支部長	永田 一雄	○	×	○	○	○	○	○
理事	細井 碧	×	○	○	○	○	○	×
理事・支部長	神谷 博行	○	○	○	○	○	○	○
理事	石川 進造	○	○	○	×	○	○	○
理事	西谷 幸一	×	×	○	○	○	○	○
理事・支部長	石田 昌久	○	○	○	○	×	○	○
理事	仲俣 雅行	×	○	×	○	○	○	○
理事・支部長	山田英佐夫	○	○	○	○	×	○	×
理事	岡本 博司	○	○	○	○	×	×	○
理事・支部長	西原 敬一	×	○	○	○	○	○	○
理事	柴 太	×	×	×	○	×	×	×
監事	田中 秀和	○	○			○	○	
〃	鈴木 健吾	○	○			○		○
〃	海野 吉正	○	○	○	○	○	○	○
〃	小倉 攻一	○			○			○
〃	岩井 春治		○	○			○	○

●環境プロジェクト

役 名	氏 名	11/ 18	12/ 15	1/ 9	2/ 20	3/ 17	4/ 16
委員長	石川進造	○	○	○	○	○	○
委 員	川上洋一	○	○	○	○	○	○
〃	八幡順一	○	○		○	○	○
〃	菊池忠男	○	○	○	×	○	○
〃	神戸徳蔵	○	○	○	○	○	○
〃	矢部 賢	○	○	○	○	○	○

理事長	大村功作	○	○		○	○	○
-----	------	---	---	--	---	---	---

●総財務三役会

役職名	氏 名	8/4	2/9	4/1
副理事長	由田 猛	○	○	○
委 員 長	平野普三雄	○	○	○
副委員長	池田 敏則	○	○	○
副委員長	小澤 栄男	×	○	○

●広報委員会

役職名	氏 名	6/4	8/5	10/8	12/4	2/4	4/7
副理事長	姫野 正弘	○	○	○	○	○	○
委 員 長	木村 秀利	○	○	○	○	○	○
副委員長	半田 實	○	○	×	○	○	×
〃	神谷 博行	○	×	○	○	○	○
城東支部	内山 雄介	○	○	○	○	○	○
城西支部	溝口 昌範	○	×	×	○	×	×
品川支部	藤田 直人	×	○	○	○	×	○
大田支部	石川 貞行	×	○	○	○	○	×
城北支部	上原 裕司	○	×	○	○	○	○
中央支部	堀江 清	○	○	○	○	○	○
足立支部	小島 一浩	○	×	×	○	○	○
葛飾支部	広根 淳一	○	○	×	○	○	○
向島支部	籠利 達郎	○	○	×	○	○	×
本所支部	野田 光昭	○	○	○	○	○	○
西部支部	岡 正典	×	○	○	○	○	×

●工組・協組監事会

役職名	氏名	9/5	11/4	2/3	4/22	5/6
副理事長	由田 猛	×	○	○	○	○
副理事長	間部健太郎	○	○	○	×	○
監 事	田中秀和	×	×	○	○	×
〃	鈴木健吾	○	○	○	○	○
〃	海野吉正	○	○	○	○	○
〃	小倉攻一	○	○	○	○	○
〃	岩井春治	×	○	×	○	○

●ホームページ特別委員会

役 職 名	氏 名	7/9	9/11	11/19	1/19	3/30
委 員 長	石川進造	○	○	○	○	○
副委員長	江原一美	○	○	○	○	○
副委員長	木下健次	○	×	×	×	○
委 員	嶋村敏美	○	○	○	○	○
委 員	深谷達志	×	×	○	×	×
委 員	木村秀利	○	○	○	○	○
委 員	藤田直人	×	○	×	×	○
委 員	大川和俊	○	○	×	×	×
委 員	柴田 徹	○	○	×	○	○

東京鍍金公害防止協同組合

●運営委員会

役 名	氏 名	1回	2回	3回
委員長	間部健太郎	○	○	○
委 員	江原 一美	○	○	○
委 員	神谷 博行	○	○	
委 員	山田英佐夫	○	○	
事務局	小原 俊幸	○	○	○
理事長	大村 功作	○		
前委員	八幡 順一	○		
前委員	木村 秀利	○		
前委員	平野普三雄	○		
前委員	志田 和陽	○		

1回:7/7 東天紅、2回:7/28 めっきセンター

3回:2/26 めっきセンター

資金調達調査

東京都産業労働局商工部は毎月の都内中小企業の景況調査とともに、定期的に資金調達に関する調査を実施している。今回5月調査では金融機関の利用状況や今後の資金調達の手段等も調査した。回答企業数 1,185、回答率 27.9%。調査結果の概要は次の通り

○主な取引金融機関は「都市銀行」が 63.2%、「信金・信組」が 29.0%と、この両方で 90%以上を占める。大規模の「都市銀行」8割、小規模が「信金・信組」4割が特徴的である。昨年調査に比べ、「都市銀行」の割合は変化がなく、「信金・信組」は 2.1 ポイント増加。「地銀」のみ 1.4 ポイント減少となっている。

○借入や返済に対する金融機関の姿勢は「厳しい」が 18.5%、「緩やか」が 31.8%。「厳しい」の割合は、平成9年11月の調査以来最も低く、昨年の調査結果と比べても 4.7 ポイント減少した。「緩やか」の割合は昨年に比べ 7.2 ポイントと大きく増加し、厳しい姿勢は緩和の方向に向かっている。

○主な取引金融機関から借入れするときの担保は「信用保証協会の保証」、「経営者の保証」、「不動産」がそれぞれ 5割前後を占めている。規模が大きいほど「不動産」の割合が高く、中小・中規模は「経営者以外の保証」の割合が他規模に比べて高い。

○主な取引金融機関から借入れするときの金利は「変化なし」が 55.0%と過半数を占めるものの、全規模で「低下」より「上昇」の割合が高い。

●環境委員会

	氏 名	6/2	7/9	9/10	10/1	12/4	2/5	3/3	4/22
副理事長	川上洋一	○	○	○	○	○	○	○	○
委 員 長	菊池忠男	○	○	○	○	○	○	○	○
副委員長	安斎克茂	○	○	○	○	×	×	○	○
副委員長	柏村一志	○	○	○	○	○	○	○	×
城東支部	西野 享	○	○	○	○	○	○	○	○
城西支部	内田悦美	○	○	○	○	○	×	○	○
城南支部	藤田嘉雄	○	○	×	○	○	○	○	○
品川支部	下田 篤	○	○	○	○	○	○	○	○
大田支部	佐藤富幸	○	○	○	○	○	○	○	○
城北支部	森 勝美	○	○	○	○	○	○	○	○
中央支部	中村建輝	○	○	○	○	○	○	○	○
足立支部	磯村博明	○	×	○	○	○	○	○	○
葛飾支部	佐藤秀昭	○	○	○	○	○	○	○	○
向島支部	向坪 昭	○	○	○	○	○	○	○	○
本所支部	横山 昇	○	○	○	○	○	○	○	×
西部支部	大内源司	○	○	○	○	○	○	○	○

●技能教育委員会

	氏 名	6/16	7/5	8/21	10/27	1/26
副理事長	八幡 順一	○	○	○	○	○
委 員 長	志田 和陽	○	○	○	○	○
副委員長	高倉 利守	○	×	○	○	○
副委員長	下平 誠	○	○	○	×	○
城東支部	芹川 充公	○	○	○	○	○
城西支部	荻宿 充久	○	×	○	○	○
城南支部	若山 雅史	○	○	○	×	×
品川支部	菅野 勝靖	○	○	○	○	○
城北支部	田村 卓也	○	○	○	○	○
城北支部	大和田昌宏	○	×	×	○	○
中央支部	石井 徹夫	○	○	○	×	○
足立支部	豊田 金造	○	○	○	○	○
葛飾支部	太田 幸一	○	○	○	○	○
葛飾支部	中田 充彦	○	○	○	○	○
向島支部	坂井 正広	×	○	○	○	○
本所支部	安西健一郎	○	○	○	○	○
西部支部	鈴木 清次	○	○	○	○	○

関東めっき健康保険組合

●理事会・組合会・事業運営委員会

役職名	氏 名	4/ 16	4/ 23	6/ 12	7/ 25	7/ 25	8/ 8	9/ 24	10/ 10	11/ 17	12/ 25	1/ 20	2/ 6	3/ 9	3/ 19
理事長	大村 功作	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
理事長代理	石川 進造	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
常務理事	高原 俊昭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理 事	八幡 順一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
〃	由田 猛	×	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	×	○	○
〃	木村 秀利	○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	○	○	○
〃	川上 洋一	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○
〃	高倉 利守	○	—	—	×	×	—	×	—	—	—	—	○	○	○
〃	平野普三雄	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○
〃	木下 好雄	○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	○	○	○
〃	永田 吉輝	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
〃	池田 敏則	○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	○	○	○
〃	岡本 博司	○	—	—	○	○	—	○	—	—	—	—	×	○	○
〃	山下 陽右	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○
監 事	半田 實	—	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○
〃	神谷 博行	—	—	—	○	○	—	×	—	—	—	—	×	×	○
議 員	菊地 利夫	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	原 清一	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	内藤 雅文	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	×
〃	今村 和則	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	小澤 栄男	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	石田 昌久	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	中山 光幸	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	遠藤 清孝	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	佐藤 雄三	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	小谷野英勝	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	大沢 俊孝	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	菊池 忠男	—	×	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—	—	○
〃	神谷 清勝	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
〃	角田 洋久	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○

4/16:第 178 回理事会、4/23:第 13 回事業運営委員会、6/12:第 14 回事業運営委員会、7/25:第 179 回理事会・第 70 回組合会、8/8 第 15 回事業運営委員会、9/24 第 180 回理事会、10/10:第 16 回事業運営委員会、11/17:第 17 回事業運営委員会、12/25:第 18 回事業運営委員会、1/20:第 19 回事業運営委員会、2/6:第 181 回理事会、3/9:第 182 回理事会、3/19 第 71 回組合会

関東鍍金工業厚生年金基金

●理事会

氏 名	6/ 24	9/ 4	12/ 19	2/ 9	3/ 31
姫野 正弘	○	○	○	○	○
大村 功作	○	○	○	○	○
田中 浩	○	○	○	○	○
川上 洋一	×	○	×	○	○
間部健太郎	○	○	○	○	○
石川 進造	○	○	×	○	○
中山 光幸	○	○	×	○	○
木下 健次	×	×	×	×	○
木村 秀利	○	○	○	○	○
柏村 一志	○	○	×	○	×
志田 篤紀	○	○	○	○	○
篠根 健一	○	○	○	○	○
石川 和男	○	○	×	×	○
池田 敏則	○	○	×	○	○
山田英佐夫	○	○	○	○	○
石井 英三	○	○	○	○	—
鯉沼 邦男	—	—	—	—	○

●代議員会

氏 名	9/ 4	2/ 9
姫野 正弘	○	○
大村 功作	○	○
田中 浩	○	○
川上 洋一	○	○
間部健太郎	○	○
石川 進造	○	○
中山 光幸	○	○
木下 健次	○	○
木村 秀利	○	○
柏村 一志	○	○
志田 篤紀	○	○
篠根 健一	○	○
石川 和男	○	×
池田 敏則	○	○
山田英佐夫	○	○
石井 英三	○	○
内藤 雅文	○	○
池谷 純一	○	○
齋藤 和久	○	×
菊池 忠男	○	○
木下 好雄	○	○
田中 秀和	○	○
後藤 英夫	×	○
吉田 勇	×	○
八幡 順一	○	○
元井 民夫	○	○
藤田 直人	×	×
大沢 俊孝	○	○
伊藤 精二	○	○
細井 碧	○	○
石田 昌久	○	○
酒巻 正明	×	○
藤田 嘉雄	○	○
田代 政明	○	×

正副理事長 中川経産大臣と会見 国会答弁のお礼

東京都鍍金工業組合正副理事長は5月27日(木)午後4時30分から霞ヶ関の経済産業省で中川昭一大臣と会見し、3月17日の参議院予算委員会での暫定排水基準の延長に関わる答弁に対して、めっき業界として感謝の意を表した。

同参議院予算委員会において森本晃司議員の質問に対し、中川経産大臣は「めっき産業は機械から家電に至るまで非常に重要な部門を占めていると思う。日本の今までの産業、物作りという観点から一つの基幹部分、重要な部分を占めていると思う。そういう中で、いまご指摘のように、このまま水質汚濁防止法の暫定基準が6月に切れてしまうことになると産業という観点から大きな影響を受けるし、他方、経済産業省としても排水処理装置の開発支援をやっているところであるが、引き続きこの暫定措置、暫定期限が延長になるように環境省によく調整をして、お願いしてまいりたい」と答弁された。

会見は、姫野正弘副理事長を通じて玉澤徳一郎衆議院議員のお力添えを得て実現したもので、組合から大村功作理事長、姫野正弘副理事長、由田猛副理事長、川上洋一副理事長、間部健太郎副理事長、宮澤裕専務理事、小原俊幸協組専務理事が出席した。

はじめに大村理事長が、「さきの参議院予算委員会で森本議員の質問に対し、経済産業省の中川大臣は、日本の大切な産業であると答弁を頂き我々めっき業界は大変に有り難く感謝している。国会の場でめっきが取上げられたのは初めてのことで、私もこのビデオを拝見して感激した。是非お会いしてお礼を述べたいとお伺いした。このビデオは全組合員に見せて組合員も大変感動している」と説明した。

中川大臣は「めっき業は日本の物作りで大切な産業である。日本の技を支えているみなさんは誇りをもって頑張ってください」等の言葉を頂いたあと、最近の景況などについて15分間懇談した。



都議会自民党政調会長と打合せ会議

東京都議会自由民主党政務調査会は、都議会6月定例会において東京都環境確保条例の一部改正案を提出することとしている。その主な内容は、暫定排水基準の延長に係るもので、めっき業界の意向を踏まえて本案件を提出、可決したいとしている。そこで業界の要望を伺いたいと、5月27日(木)午後1時30分、都議会自民党会議室に東京都鍍金工業組合正副理事長等を招き打合せ会議を行った。

都議会自民党から樺山卓司政調会長、松原忠義政調会長代行、服部征夫議員、組合から大村功作理事長、姫野正弘副理事長、由田猛副理事長、川上洋一副理事長、八幡順一副理事長、宮澤裕専務理事、小原俊幸協組専務理事、菊池忠男環境委員長が出席した。

はじめに樺山政調会長から「ほう素ふっ素等の暫定基準が70、70から50、50で延長されたが、3年後の問題がある。今後どういう動き方をすべきか、率直な意見を聞かせて頂きたい」と会議の趣旨を説明した。



(都議会・樺山議員、松原議員、服部議員)

大村理事長は「一応3年間の暫定基準がとれて、取り敢えずはこの暫定基準値で業界としても対応できるのではないかと考えているが、3年間に簡便な処理技術が開発されなかったらどうするかという問題がある。簡便な技術が開発されなければ改めて暫定を頂かなければならないことにもなりかねないが、そういうことも視野に入れて先生方のお力添えを頂きたい。我々も勉強していかなければい



けないと思っている。また、我々にとって大きな問題は土壤汚染問題である。国の法律が施行され、東京都環境確保条例で上乗せ規制されている。特に廃業した後の跡地利用が難しくなり、現に廃業後逃げという事態も起きている。先代から正当に相続したものであるが、その資産が負の資産になっている。我々が汚染したのではないが、今の人が責任を持つてというのは不合理ではないか。我々としては汚染土壤をきれいにする資金もなく、また廃業することも出来ない難しい問題となっている」と説明した。

このあと議員から、ほう素ふっ素の処理技術の開発について質問があり、組合から次のように現状を説明した。

大村理事長は「処理技術はあるが、今のところ簡便で安価な、しかも完璧なものがない。我々も勉強していかないといけないが、これといったものがなく、あれば組合員に指導していきたい」と説明。

川上副理事長は「仮にほう素ふっ素の処理技術が出来たとしても土壤汚染問題で投棄場所の心配がある。汚染土壤の入替えには莫大な費用がかかるが、汚染土壤の処分先の汚染の問題もある。また、銀行は厳しく査定して汚染された土地を担保に融資してくれない」と説明。

姫野副理事長は「土壤汚染対策法を端的にいうと、今日法律が施行されて、あなたは昨日一方通行の逆行違反をしたということである。我々中小零細企業が親から引き継いだ土地が一文の価値がないと評価されることは、これから生業としてやっていく上で資産価値のないところに金融機関は融資してくれない。前向きな設備投資や建物の建替えも出来ない。そういう窮地に追い込まれているのがこの法律である。物作りをやっている中小零細企業が成り立つような法律、支援策を打って頂かないと、仕事を続けたくとも出来ない状況になっている」と説明。

このあと、土壤汚染問題から土地の資産価値がなくなり、銀行が融資してくれない話を受けて、東京都の新銀行設立について説明を頂いた。

松原政調会長代行は「私の地元は工場のメッカである大田区である。工場がいつまでも活動出来る体制を守っていかなければいけないのが基本だと思う。いま何点かご指摘頂いたが、東京都は来年新銀行を作っていこうという動きがある。いままでの銀行と違って、かなり産業政策的な部分が入っており、我々も産業労働局と新銀行と連絡を取りながら資金融資について訴えていきたい」と説明。

樺山政調会長は「来年4月1日に新しいスタイルの新銀行東京を作るが、行きづまった状況で手を差し伸べることにより回復の兆しがみえてくるというきっかけを与えるための銀行である。基本的にはよほどのことがないかぎり無担保、無保証、上限5000万円まで融資する。長期の返済期間など、まだ具体的なことが言える段階ではないが、我々が主体的に取り組んでいることでご期待を頂きたいと思う」と説明。

服部議員は「暫定基準は3年間の延長ということで、これで終わったわけではなくこれからどう取り組んでいくか、国、都がどう取り組んでいくか、組合のみなさんと話し合いを続けながら、我々としてもどう取り組んでいくかを探っていきたい」と説明。

最後に樺山政調会長は「今日は色々な提案を頂き感謝申し上げます。我々も実現に努力していきたい」、大村理事長は「めっき業界は自民党さんとは長い付き合いがあり、今後ともよろしくお願ひしたい」と挨拶し、会議を終了した。

7月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	木			城東支部	
2	金		大田支部	葛飾支部	
3	土				
4	日	支部親睦ゴルフ大会			
5	月			城北支部	
6	火		品川支部・大田支部	中央支部	
7	水			目黒・世田谷地区	
8	木		城南支部		
9	金		城西支部	葛飾支部	
10	土				
11	日				
12	月			足立支部	
13	火		城西支部・城北支部		
14	水			西部支部	
15	木		中央支部・本所支部	品川地区	
16	金			葛飾支部	
17	土				
18	日				
19	月	海の日			
20	火		向島支部	向島支部	
21	水			本所支部	
22	木		西部支部		
23	金			葛飾支部	
24	土	技能検定実技試験			
25	日	技能検定実技試験			
26	月		城東支部・葛飾支部	蒲田・大森地区	
27	火			城西支部	
28	水		葛飾支部		
29					
30			足立支部	葛飾支部	
31					

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認ください)

大村理事長日誌



5月

6日(木)正副理事長会
理事会

7日(金)城南連合支部総会
12日(水)小平家通夜
13日(木)東京都中小企業団体中央会総会
15日(土)品川支部総会
17日(月)全鍍連常任理事会
18日(火)葛飾支部総会
19日(水)城東支部総会
21日(金)埼玉県鍍金工組総会
23日(日)健保バスハイキング
24日(月)正副理事長会
総代会
26日(木)全鍍連総会
27日(金)都議会自民党と打合せ会議
中川経産大臣と会見
28日(金)神奈川県メッキ工組総会

～正副理事長神田明神を参拝～

5月24日、組合総代会に先立って、正副理事長は神田明神を参拝、組合役員、組合員の健康、組合の発展等を祈願した。かつて組合役員が体調を崩したり災難が相次いだこと
があり、
それ以
降機会
あるご
とに神
田明神
にお参
りして
いる。





金属ボタンに鍍装飾

(日刊工業新聞 04.5.17)

福井電化工業(千葉県市川市 福井順子社長)は、鍍を演出したボタンメッキ事業を拡大する。金属ボタンに鍍装飾を施すことで、古着感覚のアパレル製品に対応する。すでに服飾商社のモリトを通じて国内外の大手ブランドメーカーの採用が相次いでおり、デザイン提案を強化しメッキ事業の収益向上を目指す。

提案営業を本格化するのは、複合メッキに鍍色塗装を加えた表面処理加工。メッキ本来の防錆機能にとらわれない逆転の発想で、自然な風合いの鍍び付いたデザインを考案した。シャツ、パンツをはじめクラシカルイメージにマッチするため、ブランド各社が採用を広めつつある。ボタン、ハトメなどの量産機能メッキ事業を展開してきた同社は中国勢の台頭などで価格競争力の低下に直面。事業構造改革の一環として、数年前から装飾メッキのデザイン開発を強化している。これまでに、いぶし銀をはじめ多彩な表面処理デザインを提案してきたが、メッキの対極にある鍍に行き着いた。

鉛・フラックスフリー対応

(日刊工業新聞 04.5.18)

タムラ製作所は科学技術振興機構(JST)から委託を受けていた「高密度半導体はんだ接合システム」の開発に成功した。東京農工大学の鹿野快男名誉教授の研究成果を応用したもので、鉛フリー・フラックスフリー対応ハンダのフリップチップ接合を可能にした。フラックス塗布装置も不要になり、パソコンや携帯電話、デジタルカメラ向け半導体などの製造コストを半分以上に減らせる。今夏に

も専用装置の製品化に踏み切る。

JSTが17日発表した。微粒子状のハンダを溶融堆積させる新しい工法を開発し、ピッチが80マイクロメートル以下の電極上に位置決め誤差3マイクロメートル以内の精度で鉛フリーハンダのバンプ(突起状電極)を形成。またプラズマ反応で鉛フリーハンダバンプ表面の改質処理を施し、フラックスも不要にした。

クロム使わず亜鉛メッキ

(日刊工業新聞 04.5.18)

サンビックス(福島県郡山市、猿渡旭社長)は、クロムを使わない亜鉛メッキの量産設備を導入した。メッキ業界では規制化学物質のクロムの使用を減らす動きを進めており、これまで使っていた6価クロムから3価クロムへの切り替えが進んでいる。これに対し同社は、一気にクロムを使わない方法を開発し、ゼロクロムの量産体制を確立した。サンビックスが量産するのは亜鉛メッキ「ゼロクロムS」(商品名)。99年、ある種の有機物を使うことでクロムを使わない亜鉛メッキ法を開発した。メッキ製品はすでに日立製作所を通して電話交換機部品としてNTTに納入されている。ただ、こまでは半自動メッキラインで手作業が多かった。今回ラインを入れ替えたことにより全自動が可能になった。ゼロクロムSによるメッキは6価クロムを使った場合に比べて黄色みが少ないものの、性能はほとんど遜色ない。

パラジウム加工不要無電解メッキ法

(日刊工業新聞 04.5.24)

室町ケミカル(福岡県大牟田市、村山哲朗社長)は福岡県工業技術センター機械電子研究所(北九州市八幡西区)と共同で、エッチングやパラジウム加工が不要な無電解メッキ法を開発した。エッチング用クロム酸など環境負荷の高い物質を使わず、メッキした金属膜はアルコールで簡単にはがすことができる。当

面、家電品などに行われている電磁波シールド加工への利用を想定。前処理剤は国内メーカーにサンプル出荷を始めており、年内に輸出も目指す。このメッキ法はイオン交換樹脂を原料にした前処理剤を使用するもの。前処理剤はスプレーで塗布でき、イオン交換により金属イオンを付着されてメッキする。原料のイオン交換樹脂は自社加工で生じる廃棄物を利用している。

多能工が多品種生産

(日刊工業新聞 04.5.31)

ヒキフネは創業 72 年を迎える東京下町生まれの老舗メッキ業者。装飾メッキを得意とするが、材料や素材そのものに機能を持たせる機能メッキも手がける。装飾メッキは中国への生産シフトが顕著で、国内企業は限られている。ヒキフネは時代の要請に応じて「取扱品目は 40～50 種類、下地を含めれば 200 種類以上に上る。自慢できる品ぞろえ」(石川英孝専務)という。エレクトロニクスや自動車などあらゆる産業を顧客とし、好不況に左右されにくい企業体質をつくり上げてきた。多能工育成がカギになる。一日に処理する製品は、200 種類以上、数十万個に及ぶ。多品種少量生産を売り物にする企業の宿命だ。約 7 年前から東京めっき工業組合の職業訓練校に従業員 2～3 人を送り込み、最低 2 年間勉強させている。現在では装飾メッキの現場作業員約 50 人のうち、半数ほどが有資格者だ。の技を持つ高度熟練技能認定の取得者も 4 人抱える。

日大とメッキ保護膜技術

(日刊工業新聞 04.6.2)

ヒキフネ(東京都葛飾区、石川輝夫社長)は、日本大学と共同開発したメッキ保護膜技術「ゾルゲル法を用いた高硬度透明薄膜」の量産化にめどをつけた。9 月にも量産を始める。デジタルカメラや携帯電話への指紋の付着を、

最小限にとどめることができる。

「鉛筆硬度 9 H 以上でこすっても傷が付かない」(石川英孝専務)という強度が売り物。これにより、同社の装飾メッキの付加価値を高め、同事業で売上高 2 割増を見込む。

同技術はガラス系樹脂のハフニウム化合物を出発原料としたハフニアゾル液に添加物を加えて、100 度 C の硬化温度で、鉛筆強度 9 H 以上の透明な薄膜を形成できた。厚さは「1 マイクロ～2 マイクロメートル程度」(同)。同社の装飾メッキ上ならばすべて適合する。

レアメタル備蓄制度見直し

(日刊工業新聞 04.6.4)

経済産業省・資源エネルギー庁は、希少金属(レアメタル)の国家備蓄制度を見直す方針を固めた。プラチナ、希土類、インジウムを新たに備蓄対象にする検討を始める。今後 2 年間かけて調達や備蓄手段など具体策を固める。一方で、現在備蓄対象となっている 7 鉱種のうち、クロム、マンガン、モリブデン、ニッケルは目標備蓄量の半分をめどに簿価を下回らない価格で売却を進める。世界的にレアメタルの市況は高騰状況にある

一方、コストのかかる国家備蓄を見直すべきだという声もあり、緊急性の観点から対象鉱種を入れ替える。レアメタルは幅広い産業にとって必要不可欠な重要素材だが、産出国には政情不安を抱える国が多く、相場の乱高下が激しい。このため、日本は安定供給策として、83 年から国家備蓄制度を始めた。現在 7 鉱種を備蓄対象、10 鉱種を要注意対象と位置付けている。今回、備蓄方針を見直すのは、例えば携帯電話用電池でニッケル水素電池からリチウムイオン電池に需要が変化し、ニッケルの相対的な重要度が低下する一方、燃料電池向けにプラチナや希土類の需要が急増するなど、技術の進展で重要鉱種が変化していることがある。

城東支部の巻 「一之江名主屋敷」

長い間住んでいる地元にもまだ知らないところや行った事のない場所というものがある。今回は「一度見てみたい」と思っているがなかなか行けなかった場所を紹介する。

江戸川区春江町2丁目に「一之江名主屋敷」がある。首都高速7号線が脇を走りスーパーがあるごく普通の町並み、その一本裏の道に入るとうっそうと茂った雑木林に囲まれた茅葺屋根の旧家が現れる(写真①)。昭和29年に東京都の指定文化財となったもので江戸時代初期の建物が当時の場所にそのまま保存されているのは都内でも唯一のものである。

と言っても昭和33年までは実際に住居として使われていたものであるため色々な修繕・改築は重ねられて来た。特にこの地特有の浸水や地盤沈下による改修なども施されているが文化財指定後は江戸時代当時の様式を出来るだけ再現して復元してある。

さて、この‘名主屋敷’の歴史について説明しよう。元禄時代(1688～1704)から明治5年の名主制度が廃止されるまでの間、この地で代々名主をつとめた田島家の屋敷だ。初代の主は豊臣家の家臣で軍師であった‘堀田図書’(ほったずしょ)である。この図書が関が原の戦い(1600年)に敗れた後、大杉の田島家を頼って移住、刀を捨て田島姓を名乗り名主として元和3年(1617年)頃から‘やぶ椿’が群生していた一之江周辺を新たに新田として開拓し、以後子孫が代々名主を務める家柄となったものである。文化文政の記録によると当時は52戸がこの地に住んでいたがすべて分家や家来で成り立っていた。

当時の名主といえば年貢の納付を初め村民の戸籍事務・道橋の整備など現在の役所的存在であったため屋敷はそうした執務を行うために長屋門を持つ威風ある構えになっている(写真②)当時幕府では一般民家での門構えは



(写真①)



(写真②)



(写真③)

許されていなかったののでこの事でも名主の力がうかがえる。

門から中に入ると屋敷は曲がり家づくりで寄棟茅葺の母屋と入母屋づくりの土間とからなるL字型をしている(写真③)。門をくぐっただけでその存在感と歴史を感じる建物である。L字型の角の部分が見学入り口になっているので‘維持協力費’の100円を箱に入れ

中に入る。すると囲炉裏の燃える臭いと煙でいぶされていかにも古さを感じる梁や柱の木に日本の原風景さえ感じる空間がそこにあった(写真④)。板の間に上がると磨きこまれた床板が心地よい。土間の上を見ると天井は無く梁がむき出しの状態で茅葺屋根がそのまま見える‘踏み板天井’の造りになっており農具や川舟等の収納場所となっていたそうだ。屋敷内はほとんどが管理人の方の説明を聞きながら自由に見学できる。囲炉裏のある板の間の奥は琉球畳が敷かれている‘中の間’。その右に‘仏間’がある。家族が使うのはここまでで、その奥は和畳が敷かれた‘次の間’そして‘奥座敷’(写真⑤)へとつながる。この次の間へは外から直接上がれるようになっている玄関が付いている。3段ほどの階段を上がる形のこの造りは‘式台’と呼ばれ当家に武士が訪れたとき専用に使われていたものだ(写真⑥)。式台内の天井にはおそらくその当時の武士から贈られたものであろう‘弓’や‘槍’が飾られていた。またこの式台の中央には‘もたれ柱’と呼ばれる一本の柱があり、名主がこの柱にもたれて座り、陳情に來た農民の訴えや悩みを聞いたと伝えられる。奥座敷と濡れ縁の間には入側(いりかわ)と呼ばれる通路があり、ここは訪問した武士の待合場として使われていたため畳が敷かれた‘縁座敷’となっていてその外には庭園が設けられていた。

さて、土間のほうへ戻ってみるとそこには農具置き場となっているスペースがありその壁面全体が幅4間にも及ぶ‘米びつ’になっている(写真⑦)。当時預かった年貢米を貯蔵していたという説もあり当家の繁栄が想像できるつくりである。

屋敷全体は前庭、屋敷林、屋敷畑(跡)で囲まれここが都内である事を忘れさせるような深閑とした空間だ。屋敷林の中には屋敷神(稲荷社)も設けられ今もお田島家によって初午などの神事が行われているそうである。今回取材でうかがった時にも3組ほどの見学者が訪れていたが皆その屋敷全体に漂う荘厳な雰囲気に触れ、忘れていた何かを思い出しているようであった。時々訪れてその歴史と空気に触れたい場所である。

[一之江名主屋敷]

公開日は毎週月曜と水曜を除く毎日(午前10



(写真④)



(写真⑤)



(写真⑥)



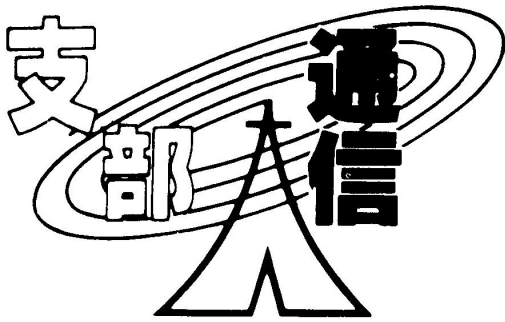
(写真⑦)

時から午後4時)、ただし田島家を使用する日と年末年始は除く。料金は維持協力費として100円、(中学生以下と60歳以上は無料)
(取材協力・江戸川区文化財係/文・写真 内山雄介)

7 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00)			
日	曜	時	内 容(予 定)
2	金	A	腐食防食② (電気化学) めっきの腐食と耐食性、貴金属と卑金属、陽極腐食等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき② (めっき法) シアン浴(高濃度浴, 低濃度浴)成分とめっき条件、管理要点等 (株)ハイテクノ 鈴木昭一
6	火	A	めっき設備① (生産工学概論) 溶剤洗浄, アルカリ加温洗浄、電解洗浄、酸洗浄設備、めっき の前処理設備。 小暮技術士事務所 小暮秀夫
		B	めっき設備② (生産工学概論) 手動自動めっき設備の種類と特徴、局所排気装置、水洗設備、 熱交換器、電源。 小暮技術士事務所 小暮秀夫
9	金	A	粉じん① (安全衛生) 労働安全衛生法、粉じん障害防止規則、粉じん作業と作業管理 等【粉じん作業取扱資格取得科目】星野技術士事務所星野芳明
		B	電解研磨・化学研磨① (金属表面処理法) 電解研磨理論、りん酸—銅電解研磨実験、イオン溶出と電解電 流曲線。 東京都立産業技術研究所 棚木敏幸
13	火	A	粉じん② (安全衛生) 研磨の特性、粉じん防止技術、健康管理等。 【粉じん作業取扱資格取得科目】星野技術士事務所 星野芳明
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき③ (めっき法) 低シアン浴とジンケート浴の組成、成分の働き、浴管理の要点 (株)ハイテクノ 鈴木昭一
16	金	A	制御機器① (電気工学概論) 自動接点のしくみ、制御用センサー、リレースイッチ、サーマ ルリレー等。 (株)小島鍍金工業所 小島一郎
		B	電解研磨・化学研磨② (金属表面処理法) ステンレス鋼の電解研磨、化学研磨の実際(鉄銅, ステンレス, アルミ) 東京都立産業技術研究所 棚木敏幸
20	火	A	制御機器② (電気工学概論) a 接点 b 接点、デジタルとアナログ、液面リレー、タイマー、 モーター制御等。 (株)小島鍍金工業所 小島一郎
		B	亜鉛・亜鉛合金めっき④ (めっき法) クロメート処理、高耐食性亜鉛めっき等。 (株)ハイテクノ 鈴木昭一
23	金	A	めっき材料① (材料) ニッケル、銅、亜鉛の電極、各種界面活性剤の性能と利用法等 星野技術士事務所 星野芳明
		B	引っかけ治具① (めっき法) 引っかけ治具の性能、一次電流分布の管理、等電位面等。 矢部技術事務所 矢部 賢
27	火		生産実技 9:00～17:00 技能教育会委員, 環研
30	金	A	引っかけ治具② (めっき法) めっき物の浴内配置、めっき厚さ分布、治具の通電接点等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	めっき材料② (材料) キレート剤の種類と構造、金属表面技術としてのキレート剤の 利用と応用等。 星野技術士事務所 星野芳明

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または 7500 円です。



■城東支部

第 64 回定例総会開催

城東支部(遠藤清孝支部長)は5月19日(水)午後6時30分から江戸川グリーンパレスで第64回定例総会を開催した。

総会に先立って、ほう素ふっ素等の暫定基準の延長に関する3月17日の参議院予算委員会の質疑応答のビデオを上映した。

総会は長谷川寿紀会計の司会により、出席者22名、委任状12名により総会が成立する旨報告があった。新井嘉喜雄副支部長の開会の挨拶のあと、遠藤清孝支部長は「足もとの悪い中多数のご出席を頂き感謝申し上げます。総会に先立ち暫定基準の延長に関するビデオをご覧頂いたが、中川経産大臣がめっきは日本の製造業の重要な部分を占めているとの答弁があり、私も改めて感激した。組合の長い歴史の中でこうして国会の場でめっきが取上げられたことは初めてではないかと思う。まさに快挙といえる。この1年支部活動を振り返ると、水生生物に関する亜鉛規制の動き、暫定基準の期限切れ問題

鉛フリー、クロムフリーの問題、土壤汚染問題等、環境問題ばかりであった。例会でも土壤汚染問題が出て所定の時間で終わらなかったことがしばしばあった。いずれにしても環境問題は個々にどうにかなる問題ではなく、組合活動が大事になってくるのではないかと思う。総会の議事運営にご協力をお願いしたい」と挨拶した。

議長は慣例により木下健次常任理事を選出して議事に入った。平成15年度事業報告を西田和幸総務、同会計報告を滝沢修一会計、監査報告を斉藤照男監事が行い、承認された。次に新地区部長の紹介、来賓として組合本部の大村功作理事長は、組合環境プロジェクト設立から暫定基準の延長に関する一連の動きと、本部行事として7月の親睦ゴルフ大会、来春の本部賀詞交歓会への組合員多数の参加をお願いする挨拶をした。江戸川区議の高木ひでたか氏は、土地取引における土壤汚染問題の厳しい状況について挨拶があり、総会を終了した。引き続き二部懇親会に移り、遠藤支部長の挨拶のあと、八幡順一副理事長の乾杯の音頭で祝宴に入った。



■城西支部

総会 新支部長に 小橋秀一氏



城西支部(元井民夫支部長)は、5月14日(金)午後6時から池袋のサンシャインシティプリンスホテル2階「飛魚の間」で平成15年度第38回定期総会を開催した。

総会は津田智宗副支部長の司会により、荻宿充久副支部長の開会の辞に続き、元井支部長が「当業界も不景気で厳しい状況にあるが、皆様の努力とともに頑張っていきたい」と挨拶。元井支部長を議長に選出して議事に入り、(1)平成15年度事業報告を内田悦美副支部長、同年度収支報告を武荻清一会計監事、同年度監査報告を田中秀和会計監査が行い、承認を得た。(2)役員改選では新支部長に小橋秀一が選ばれ、新役員(別掲)を発表した。ここから小橋新支部長が議長を務めて、(3)平成16年度事業計画報告を加藤昇総務委員、同年度収支予算案報告を武刈会計監事が説明し承認され、議事を終了した。

来賓祝辞を溝口幸範支部顧問が述べ、石田義勝副支部長による閉会の辞で定期総会を終了した。

引き続き、懇親会では菊地利博総務委員の司会により小橋新支部長は「景気低迷も影響して、我々の業界も良い状況ではない。土壌汚染をはじめ公害に関する

様々な環境問題が一段と取り沙汰され、まだまだ課題も山積みとなっている。そんな暗い状況の中ではあるが、今年6月末で適用期限が切れる、ほう素、ふっ素等の暫定排水基準がもう3年間延長となり、規制の緩やかな排水基準を適用していくことで、ひとつの明るい光が見えた。これからも様々な問題があると思われるが、私達は色々な情報を支部に伝え、早い段階で対策などを考えていきたい。今後の支部運営は勉強会を中心とした形になるが、皆様のご協力をもって進めていきたい。任期の2年間で色々努力していきたいので、よろしくお願いしたい」と就任の挨拶をした。

新役員は次の通り

常任理事	柏村一志	(有)柏村防錆研究所
支部長	小橋秀一	(株)清化学
副支部長	荻宿充久	三共鍍金(株)
	津田智宗	(株)エス・ケイ・エス
	石田義勝	(有)協栄電化工業所
会計	武荻清一	武荻鍍金(株)
会計監査	久保和克	(株)エス・ケイ・エス
	田中秀和	(株)田中鍍金工場



■城南支部

第 31 回定時総会

城南支部(中澤敏明支部長)は 5 月 14 日(金)午後 6 時から目黒区東山のKKR ニューメグロで第 31 回定時総会を開催した。

まず司会の小谷野英勝副支部長が、出席者 10 名、委任状 13 名により有効に総会が成立する旨を報告した。中澤支部長は「長らく景気低迷や環境規制の強化等から支部員が減少しており、支部の将来として合併を考えていきたい。そのために支部内に委員会を設けて合併の準備を進めていきたい。昨年 11 月に本部で環境プロジェクトが発足し、ほう素ふっ素の暫定基準の延長を運動してきたが、公明党の協力を得て国会でめっき業界の窮状を取り上げて頂き延長されることが決まった。のちほどその国会審議のビデオをご覧いただきたい」と挨拶をした。

議長に木村秀利常任理事を選んで議事

に入った。平成 15 年度事業報告を若山満事業部長、同決算報告を藤田嘉雄会計、会計監査報告を伏原明人監事が行い、承認された。続いて、平成 16 年度事業計画案並びに予算案が原案通り承認可決された。その他として、中澤支部長から、支部の合併に向けての取り組み方について提案があり、承認された。

来賓として、宮澤裕専務理事が挨拶し、組合活動の現状について説明があった。最後に伏原暉幸副支部長の閉会挨拶で総会を終了した。

中澤支部長の挨拶にあった参議院予算委員会のビデオを視聴、森本晃司議員がめっきが重要な産業であることを強調した上で暫定基準の延長を求め、また森本議員の質問に対し中川昭一経産大臣はめっき業は産業の中核的な存在で大事な部門等の発言をされ、組合員の感動を集めた。このあと、並木秀幸元支部長の乾杯音頭で懇親会に入った。懇親会は伏原暉幸副支部長の中締めまでなごやかに進められた。



■品川支部

第 31 回定時総会

品川支部(藤田直人支部長)は5月15日(土)午後5時30分から高輪プリンスホテル「ルイ・レオーネ」で第31回定時総会を開催した。

はじめに司会の植木謙一事業部長から、出席者22名、委任状16名により総会が成立する旨の報告があった。藤田支部長は「ご多忙のなかを多数のご出席を頂き感謝申し上げる。めっき業界に対するほう素ふっ素等の暫定基準の期限切れに対し公明党さんにお骨折り頂き延長されることが決まった。その参議院予算委員会での質疑応答のビデオを本日ご覧頂く予定であったが、設備の都合がつかず後日地区ごとにご覧頂きたい。また本部行事として7月4日に親睦ゴルフ大会、来年1月7日に大勢の組合員の参加による新年会を企画しており、多数の参加などご協力をお願いしたい」と開会の挨拶をした。

議長に高倉利守常任理事を選出して議事に入った。平成15年度事業報告を植木事業部長、

同決算報告を菅野勝靖会計、監査報告を阿部正明監事が行い、承認された。続いて平成16年度事業計画案並びに予算案が原案通り承認された。

来賓として組合本部の大村功作理事長は「品川支部さんはこれまで定期的にパソコン講習会を開くなど素晴らしい支部活動を行ってきた。私も組合HP特別委員会で、高齢者を対象にした講習会を行うようお願いしてきたが、品川支部さんはそうした講習会を率先して行ってきたことは素晴らしいことである」と述べるとともに、組合環境プロジェクトの設立から公明党のご支援によりほう素ふっ素等の暫定基準の延長が決まるまでの経過を説明した。最後に原清一副支部長は「総会の無事終了しみなさんの協力を感謝申し上げます。これから本部総代会が行われるが、議決権のある総代の方には出来るだけ出席頂くようお願い申し上げます」と閉会の挨拶をし総会を終了した。

二部懇親会に移り、佐藤二郎相談役は「年々組合員が減少しているが、これ以上減らないよう頑張って頂きたい」と述べて乾杯音頭をとった。懇親会は佐藤一男副支部長の閉会の辞までなごやかに進められた。



■大田支部

第 31 回定時総会

大田支部(志田和陽支部長)は5月14日(金)午後6時30分から羽田空港ガレリア「ギャラクシーホール」で第31回定時総会を開催した。

はじめに司会の入内島正悟副事業部長から、出席者32名、委任状30名により総会が成立する旨の報告があった。池田潤一副支部長の開会の挨拶のあと、志田支部長は「昨年の総会からあっという間に1年が過ぎたように感じるが、今日を境に平成15年度が終わり、16年度が始まる。これまでの厳しい経営環境もあるが、みんな元気がないようであったが、みなさんの会社が元気であってこそ大田支部であり、頑張っていたきたい。今日は総会のほかにほう素ふっ素等の暫定基準の延長に関する国会審議のビデオ上映などがあり、スムーズな議案審議にご協力をお願い申し上げます」と挨拶をした。

議長に内藤雅文常任理事を選出し議事に入った。平成15年度事業報告を佐藤富幸事業部長、同会計報告を江原一美会計、監査報告を志田篤紀監事が行い、承認された。続いて平成16年度事業計画案並びに予算案が原案通り承認された。

その他として、近藤忠夫渉外(大田区議)から「東糀谷5・6丁目の工業専用地域の用途地域変更を行い福祉厚生施設を建設することが新聞で報じられている。我々製造業としていつそういう仕組みで工業地域が変わってしまうかもしれない、大田区の将来に危惧せざるを得

ない。東糀谷5・6丁目の工業専用地域の用途地域変更を行い福祉厚生施設を建設することに反対である決議をお願いしたい」と提案があり、拍手で承認された。

来賓として、中西一善衆議院議員、川上洋一副理事長、平野壽大田区産業経済部長から祝辞があり、このあと暫定基準の延長に関して3月17日の参議院予算委員会のビデオを上映した。最後に葛西康二副支部長が「昨年から城南連合支部の事務局長を仰せつかっている。先般総代会を終了した。組合員の減少等により城南連合事務局の財政が厳しくなり、繰越金を取り崩している状況である。現在ほとんどの方が保険に加入して頂いているが、まだ未加入の方、或はもっと増やして頂ける方があればご協力をお願いしたい」と閉会の挨拶をし総会を終了した。

引き続き二部懇親会に移り、石川貞行副事業部長の司会により、池谷純一本部理事の開会の挨拶、来賓として藤井一都議会議員、大山均都議会議員、鈴木晶雅都議会議員、小原俊幸協組専務理事から挨拶があり、あんしん財団、組合ホームページ特別委員会(近藤事務局)から事務連絡があり、内藤雅文常任理事の乾杯音頭で祝宴に入った。懇親会は金子俊明副支部長の中締めまでなごやかに進められた。



■葛飾支部

総会開催

葛飾支部(神谷博行支部長)は5月18日(火)午後6時から青戸のテクノプラザでが出席して総会を開催した。

小倉攻一副支部長の司会により、まず支部員出席者26名、委任状39名により有効に総会が成立する旨報告した。

西谷幸一副支部長の開会の挨拶のあと、神谷博行支部長は「お忙しい中を多数ご出席頂き感謝申し上げます。今日の新聞でも景気回復が報道されているが、我々業界も少しは良くなったかなと思うところもあるが、まだまだ波及していないのが現実ではないかと思う。中国が物凄い勢いで伸びており、そのため我々が使うニッケル板や鉄鋼などが値上がりしている。かつて3年で日本に追いつくといわれていたが、大きな脅威となっている。支部活動ではたんぼぼ計画を進め良い結果が出ているが、今年は最後の3年目に入る。私の代になって稼ぐことばかりやっていると云われるが、支部の資金が逼迫しており、収入増を図ることを進めていきたい。国会でめっきが取上げられたのは初めてのことでお蔭様でほう素ふっ素等の暫定基準が延長されるが、3年後のことも今から考えていかなければならない。私も支部長を3年やらせて頂いてもう1年任期があり精一杯努力していくのでご協力をお願い

したい」と挨拶をした。

議長は司会者一任により太田寿一顧問を選出し議事に入った。

事業報告	広根淳一副支部長
決算報告	伊藤精二副支部長
監査報告	関根利定監事
事業計画	広根淳一副支部長
収支予算案	岩佐博已会計

以上それぞれ担当役員が説明し、承認された。その他として関根利定監事が明鍍会積立金の元金返済と規約改正について提案、承認された。最後に佐藤秀昭副支部長が「3年間神谷支部長のもとでやってきたが、環境問題が厳しくなっている。明るい未来を目指して頑張っていきたい」と閉会の挨拶をした。

続いて、石川進造環境プロジェクト委員長は暫定基準の延長に至る経過等を説明し、その後参議院予算委員会のビデオを上映した。

懇親会に移り、中田充彦副支部長の司会により、神谷会長の挨拶のあと、組合本部の大村功作理事長、郡司三全元区議の挨拶があり、石川進造顧問の乾杯音頭で懇親会に入った。懇親会は鶴尾安信相談役の中締め、岡田亘弘相談役の大締めまでなごやかに進められた。



■向島支部

定期総会開催

向島支部(石田昌久支部長)は5月14日(金)午後6時から東京東信用金庫吾嬬支店で定期総会を開催した。

はじめに司会の仲俣雅行副支部長が定足数確認の報告を行い、向坪昭副支部長の開会の辞のあと、石田支部長は「本日はご来賓を始め顧問相談役、組合員の多数のご出席を頂き感謝申し上げます。昨年5月の総会で支部長を拝命して1年が経ったが、何とか頑張って、お金の方も節約して予想よりも多く節約できたかと思っている。しかしながら足りないところが多く、今回の総会でみなさんにご無理をいわなければならないかと思っている。残念なことは、昨年は54社でスタートしたが、仲間が6社減り今年は48社で始めなければならないことである。景気の方は、トヨタが世界で5位になったとか、各社史上最高の高利益とか、大企業においては、かなり景気の向上が見えてきているが、我々の業界においては、組合員の減少が続いているということからもまだまだ厳しい状況にあると思っている。1990年にバブルが崩壊して景気が良くなるのではないかという兆しはこれで3回目である。3度目の正直でいい加減に良くなって貰わないと本当に我々も大変だと思っている。ただ今までのオイルショックとか、そういう不況と今回は違うと思う。景気が良くなる、ならな

いという部分も、人まかせではなく各個人個人が、例えば社長として、そして社員として何をしなければならないのか、何をすべきなのか、そのような本質を見極めて、そして行動をしていかないと良い方向には向かっていかないのではという感じがする。平成16年度も今日から始まるが、組合員一同、何とか皆さんの事業のサポートとして組合を運営していきたいと思っており、今年もよろしくお願申し上げる」と挨拶をした。

議長に下條武毅相談役を選出して議事に入った。平成15年度事業報告を大場章司副支部長、同決算報告を小篠滋会計、監査報告を三田村英二監事が行い、承認された。次に平成16年度事業計画案を石田支部長、同収支予算案を坂井正広会計、組合費改定案を石田支部長が行い、いずれも原案通り承認された。

表彰に移り、向島支部賞が大場章司副支部長に贈られ、また、12年間会計監査を務めた岩井春治氏の相談役委嘱が発表された。

来賓として都議会公明党石井義修幹事長、組合本部の姫野正弘副理事長、東京東信用金庫・長谷川圭志副理事長から祝辞があり、仲俣副支部長の閉会の辞をもって終了した。



■西部支部

第 43 回総会開催

西部支部(西原敬一支部長)は5月29日(土)午後5時から吉祥寺東急インで第43回定期総会を開催した。

はじめに司会の山下良司事務局長が出席者29名、委任状7名により総会が成立することを報告した。

西原敬一支部長は「お忙しい中を多数ご出席を頂き感謝申し上げる。昨年度はたんぼぼ計画を進めてきたが、みなさんのご協力によりスムーズに進めることができた。特に中防災さんには大変お世話になった。当初動き方が分からず、みなさんにご迷惑をかけたが、やっていくうちに、コミュニケーションが良くなり、労働安全衛生の関心も高まり良かったと思っている。今年度も昨年度と同じような内容で続けていくのでご協力をお願いしたい。昨年度より若干予算は少ないが、昨年度出来なかったことを進めていきたい。現場における安全教育、作業改善など研修会を行う予定でぜひ傘下をお願いしたい。この事業が浸透することで即成果が現れるということではなく、労働安全衛生に関心を持ち、また会社の中に取り入れることによって会社の雰囲気が少しずつ変わり、従業員のモチベーションが変わってくることがあると思う。ご協力をお願い申し上げます」と挨拶。

議長に姫野正弘副理事長を選出して議

事に入った。平成15年度事業報告を山下事務局長、同会計決算報告を柴太副支部長、監査報告を田中浩監事が行い、承認された。続いて平成16年度事業方針並びに予算案を西原支部長が説明し、原案通り承認された。

広報配布のご協力を頂いている二幸産業(株)、小林鍍金資材に西部支部から記念品が贈呈され、この後、中央労働災害防止協会関東安全衛生サービスセンター松村博副所長が、配布の労働安全衛生に関する冊子の説明を行い、最後に半田實常任理事の閉会の辞で総会を終了した。

引き続き二部懇親会に移り、西原支部長の挨拶の後、3月17日の参議院予算委員会での森本議員がめっき業の暫定基準の延長を求める質疑応答のビデオを視聴した。来賓として姫野正弘副理事長が挨拶し暫定基準の延長に至る組合執行部の活動及び来年1月7日京王プラザホテルで全組合員参加型の賀詞交歓会を盛大に開催するための協力を求める挨拶をした。山下陽右顧問の乾杯音頭で懇親会に入り、角田洋久監事の中締め、佐藤晃Cブロック長の閉会の挨拶までなごやかに進められた。



■足立鍍友会

総会開催

足立支部(永田一雄支部長)の足立鍍友会(高橋利男会長)は5月28日(金)午後6時30分より18名が出席し、銀座アスター千住賓館において平成15年度定時総会を開催した。冒頭、高橋会長より、「3月の家族食事は参加者が予想をはるかに超え、大盛況であったことを感謝申し上げます。今後も楽しい企画を考えたい」との挨拶があった。引き続き鍍友会会員の中から小澤栄男氏が議長に選出され議事に入った。すべての議題が円滑に承認され、無事総会が終了し、懇親会に移った。懇親会に先立ち、高橋会長が「昨年度より新会員4名の参加を得て、鍍友会もますます活気が出てきた。新会員諸君も2年目になったので今年は鍍友会発展のために積極的に協力していただきたい」と挨拶し、続いて鍍友会会員でもある永田支部長より「若い人たちをみていると、自分が初めて当時の青年部会に参加した時の事を思い出す。当時を振り返ると、会の活動に参加する事によって自分がこの中で何が出来るのか、いろいろ模索して行くうちに参加するメリットが発見できたように思う。将来は君たちが足立支部、そして鍍金組合の主役になっていくのだから、今からいろいろと勉強してくれ」との話があった。豊田金造技能教育委員による乾杯の音頭で懇親会に移り、最後は丸山茂氏の中締めで散会した。



■葛飾青年部会

総会開催

葛飾青年部会は5月28日(金)北千住の「明日香」において総会を開催した。

太田幸一会長の挨拶に始まり、平成15年度事業報告、決算報告承認に続き、平成16年度事業計画案、予算案を審議承認、最後に役員改選に移り、太田会長の任期満了に伴い石川英孝新会長が誕生して無事総会を終了した。

第二部懇親会に移り、石川新会長挨拶及び新会員紹介、神谷博行支部長の挨拶、菊池忠男常任理事による乾杯となった。その後はOBの方々との楽しい歓談となった。

今回は会場が北千住と少々遠かったのですが、出席者23名の総会が開けたのもOBの方々のご協力あってのものでした。ご協力ありがとうございました。今後は石川会長を中心に10名となった青年部会で頑張っていきます。(山田悦功)



3価クロム化成処理剤の特性と問題点

(社)表面技術協会めっき部会の4月例会で(4月15日/めっきセンター)で、OEAガルバノ事務所・青江徹博氏が「6価クロムフリー化成処理の問題点と今後の展望」をテーマに講演、その中で3価クロム化成処理剤の特性と問題点を次のように上げた。

- ① 3価クロム化成処理と6価クロムクロメート処理の同一ラインでの混在処理の問題(6価クロム混入)
- ② 3価クロム化成処理の総合コストの問題
- ③ 3価クロム光沢化成処理と6価クロム光沢クロメートとの識別の問題
- ④ ネジ部品のトルクの問題とフュエルチューブの緑色クロメート処理の問題
- ⑤ 3価クロム化成処理皮膜が6価クロムクロメート皮膜より優れている点として青色皮膜が経時で黄色変色しにくい。耐熱性がよい。
- ⑥ 3価クロム化成処理剤や3価クロム化成処理皮膜中に6価クロムが微量含有する疑いのある問題
- ⑦ 3価クロム化成処理剤の管理の問題(pH管理、鉄分)
- ⑧ 3価クロム化成処理は亜鉛めっき浴種を選ぶ問題
- ⑨ 3価クロム化成処理液の廃水処理の問題
- ⑩ 3価クロム化成処理皮膜の耐食性の問題(自己修復性はないのか)
- ⑪ 塩水噴霧試験評価の問題(白錆10%判定が困難)
- ⑫ 3価クロム化成処理剤の国際的特許の問題

編集後記

新聞等はさかんに景気回復を取上げているが、その内容は大企業が中心であり、家電や自動車各メーカーが好決算を発表している。特に三菱を除く各自動車メーカーはそれぞれ増収増益となり、なかでもトヨタは税引後利益が日本の企業としては初めて1兆円を突破したことが注目された。一方、毎日のように報道されている三菱自動車・ふそうトラックのリコール隠しや新たに欠陥が次々と発表され、いったいどこまで隠していたのかと同社に対する不信感が増大している。これまでの再建計画も修正を余儀なくされており、ここまで深刻な事態になると再建も容易なことではないだろう。

ところで中国経済の急成長が日本の景気にも波及していることが報じられているが、さきに中国で自動車ショーが開かれ、日本

円で1億円もする高級車が売れていることがテレビで放映され、改めて中国経済の物凄い勢いを感じさせた。中国は世界の工場となり、また一大消費地ともなって世界の注目を集めるまでになり、日本の全般的な不況とは対照的となっている。

広報6月号

印刷 平成16年6月15日
発行 平成16年6月15日
(毎月1回20日発行 第37巻第6号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113-0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 木村 秀利
印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定価 500円

けんぽのお知らせ

関東めっき健康保険組合
TEL 03-3813-5916
No. 51 2004. 6

成人病健診・人間ドック・脳ドックのご案内

関東地区 75ヶ所の契約機関で受けられます。

当健保組合は健診に大きな力を注ぎ、費用の補助など、受けやすい環境づくりを進めています。一年に一度の健康チェックを必ず受けましょう。

◎ 対象者及び費用負担



種 別	健 診 対 象 者	組合負担額(平均)	受診者負担額
成人病健診 (C・D 検 査)	被保険者及び 被扶養配偶者	20,000円	2,000円
人間ドック	被保険者及び 被扶養配偶者	日帰り 34,000円 1泊 45,000円	10,000円 20,000円
脳ドック	50歳以上の被保 険者及び被扶養者	定額15,000円補助	平均15,000円
骨粗鬆症健診	女子被保険者及び 女子被扶養配偶者	定額 3,150円補助	平均 0円

◎ 検査項目

項 目	成人病健診	人間ドック	脳ドック	項 目	成人病健診	人間ドック	脳ドック
問 診	○	○	○	胸部X線検査	○	○	
身体計測	○	○		胃部X線検査	○	○	
視力検査	○	○		心電図検査	○	○	
理学的検査	○	○		肺機能検査		○	
血圧検査	○	○		聴力検査	○	○	
尿 検 査	○	○		眼底検査		○	
便 検 査	○	○		腹部超音波検査		○	
血液学検査	○	○		頭部MRI, MRA			○
血清検査		○		婦人科(希望者)	○	○	
生化学検査	○	○		骨粗鬆症(〃)	○	○	

※検査項目は、実施機関によって異なる場合があります。

成人病健診、人間ドックの他に、16ヶ所の契約機関で脳ドックを受診できます。

契約機関及び健診手順につきましては、機関紙「めっきけんぽ」6月号をご覧ください。か
健保組合までお問い合わせください。